

イナズマイレブンRTA
称号『英雄に連なる者』
獲得ルート

山田一クネス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは『イナズマイレブン 英雄たちのグレートロード』で称号『英雄に連なる者』獲得に奔走した記録動画です。

(淫夢要素は) ないです。

(ガバも) ないです。

目次

第一部 アレスの天秤

Part 1 チュートリアルとサツ

カー部廃部 1

Part 2 特訓と伊那国島出発

11

第一話 それぞれにとってのサッカー

27

part 3 星章学園戦と雷門中転校

39

Part 4 特訓 57

Part 5 美濃道三戦 78

第二話 胸に燻る 98

第一部 アレスの天秤

Part 1 チュートリアル〜サッカー部廃部

延期に延期を重ね遂にVRゲームとなった『イナズマイレブン 英雄たちのグレートロード』RTA、はーじまーよ。

まずは開始する前にこのゲームの説明を。

このゲームは5年ほど前に開発が中止されたかと思いきやフルダイブVRという非常に新しい技術を引っ提げて発売された経緯を持ち、ほぼ無限大のキャラクタークリエイトで作成したオリジナルや原作キャラとなってサッカーで日本一になったり世界一になったり歴史を修正したり銀河を救ったりするゲームです。

サッカーってなんだよ（哲学）

いつぞや日野神が「集大成となるようなゲームを作りたい」と言っていた通り、無印・GO・アレスの天秤の3つのルートを遊べるのも非常に高評価ポイントですね。

こういうのでいいんだよこういうので。

前置きはこれくらいにして、今回走るの『英雄に連なる者』というトロフィーを獲得するまでのタイムを競うルールです。

アレスの天秤ルートでチョウキンウンズというテンマーズ並みのクソダサチームに入り、ラスボスであるシャドウ・オブ・オリオンを倒すと手に入る称号ですね。

つまりany%レギュです、(一切の捻りがなくて)笑っちゃうんすよね。

ヨシ！ opが終わったのでキャラクリに入ります。

と言つても、ステータスはまだ割り振れないので名前と容姿と属性およびポジション、それと学年を決めるだけです。

ステータスの説明はまた後ですとして、名前は入力速度を考慮して『細谷 誠也』、略してホモくんです。

次に属性とポジションですが、必ず風属性DFを選択しましょう。

チョウキンウンズは全世界から強力な選手を採用する関係上、FWやMFの枠はもはや存在しません、円堂という守護神がいるGKも同様です。

頑張れば原作キャラを越えるFWホモくんも誕生させられますが、絆イベントや過酷な特訓をこなす必要があるのでロスです。

まあ、無事雷門選手となつて日本代表に選ばれるにはFWとMFも兼任する必要がありますが、あかんこれじゃホモくんが(器用貧乏で)死ぬウー！と思われられるかもしれませんが、そ

こは走者の腕と強運の見せ所ですね。

学年は初期ステが高い三年や二年にしたいところさんですが、三年はキャプテンになる可能性があり、二年は同級生が多く絆イベントが発生しやすいので伊那國中唯一の一年にします。

最後に容姿ですが、こは身長体重性別を中肉中背男に設定したら残りは全てランダムです。

スピードだけを追求するなら小柄体型一択ですが、それだとあまりに尖りすぎてるからね、仕方ないね。

逆に大柄体型はスピードにバフが付く風属性と噛み合いませんし、既に別のRTAが存在するのでそちらを見て、どうぞ。

そして出来上がったホモくんがこちら（三秒クツキング）

はえくすつごいいケメン。個人的に気怠げな雰囲気が高感高いですね。
てことでキャラクリが終わったので早速始めましょう。

ゲームスタートのボタンを押し、その後の暗転終了時にタイムスタート、タイムストップはエンディング終了後に称号獲得のテロップが出た瞬間とします。

はい、よいいスタート。

動けるようになったらメニューからステータス画面を開きましょう。

このゲームにおける初期ステータスは固定ではなく、ポジション等にもよりますがランダムで決定します。

これはホモくんが過去にしてきた特訓を反映してらしく、低かったりそもそもサッカー部に所属していなかったらリセです（21敗）

キック21、スピード19、ボディ12、スタミナ13、コントロール15、ガード25、キヤッチ11、ブレイン12。

文句なしの高ステです、必殺技も「スパイラルドロロー」という風属性ブロック技で使い勝手が良いので続行ですね。

家を出てダツシユで目的地の伊那国グラウンドに向かいます。

主人公たちとの部活動もといチュートリアルはすっぽかしても良いのですが、好感度を減らすほどのメリツトはないので大人しく向かいましょう。

それと今チャート必須なのですが、LINEに長文を打ち込んでおきます。

とあるキャライベントでそこそこのタイムを短縮できるのでやらない手はありません。

全速力でながらスマホとかこいつすげえ変態だぜ？

うーん、にしても若干遠いですね。

往復するのは序盤だけなのでリセするほどではないですが、序盤の少ないGPが減るのは素直にまず味です。

グラウンドまで見所もないので倍速に……

「あつ、細谷ー！」

しません。

海原のりかが全速力のホモくんを追走してきたからです。

ホモくんとのりかの家は結構高かったので薄々わかってましたが、どうやら今回はのりかが友好キャラになっているようです。

ホモくんはゲーム開始時点で特定の誰かと親密な関係になっている事があり、その相手を友好キャラと呼びます。

絆イベントが発生しやすいのでロスの原因になると思われるかもしれませんが、のりかに限った場合その限りではないです。

というのも、友好キャラのポジションの対となるステータスが開始時点で多少高くなるからです。

この場合、のりかはGKなのでホモくんのキックが高くなっています。

序盤は小僧丸以外必殺技を覚えておらず、ホモくんはFWをやってもらっているのでこれは

うま味です。キックを伸ばすための時間を他に回せますしね。

ちなみにFWが友好キャラの場合リセです（8敗）

「どうしてそんな走ってるの!? まだ部活の時間じゃないよ!」

応答ですが、ここは左下に表示される三つの選択肢から選びます。

通常プレイなら一から台詞を考える事も出来ませんがこれはRTA、そんなロスイ事はやつてられません。

つてうわ、選択肢の2/3が『……』です、ちよつとホモくんコミュ障すぎんよー。

『……早く特訓がしたい』でいきましよう。

「じゃあ私もっ！ 一緒にやろ！」

あついいつすよ（快諾）

じゃけんここからグラウンドまで競争しましょうね、ホモくん無口すぎて何も喋れません。

—— ついて来れるか。

グラウンドに着くとのりかと小僧丸以外が練習してるので挨拶……しようと思いましたがホモくんがしてくれないのでそれとなく混ざりましよう。

ホモくんとのかかりかが準備運動を終えると練習試合、チュートリアルが始まります。

キックやパス、シュートといった行動を一通り試せますが、一点入れたら強制的に終わるのでぱぱっとシュートを決めて、終わり！

「ほっ、良いシュートだよ！ 細谷！」

あのさあ（クソデカため息）……どうやらホモくんと特訓していたせいでのりかのキヤッチが規定値より高くなっていますね。

この程度のロスなら誤差ですし、星章学園戦で活躍してくれるので続行です。

（そもそもDFチャートなのでここで点を取れなくても問題）ないです。

ちなみに星章学園戦、原作と違ってスポンサーが付いてくれるかは確率なんですよね、なので失点は減らしておくに限ります。

ちなみにスポンサーが付いてくれなかった場合当然リセです（3敗）

そしてホモくんが決められないという事は誰もゴールを奪えないので容赦なく倍速です、ホモくんチームはホモくんが「スパイラルドロロー」するだけで失点しないので引き分けに持ち込むのは楽ちんちんです。

チュートリアルが終わると我らが主人公稲森明日人と誰？ こと通成達巳がもつと強いやつと戦いてえ（意識）と言って校長室に行くので、このうちに購買に行きましょう。

GPとTPを回復できるスタミナドリンクとプチサンドを買い込んでおくためですね、シュート技を習得したので比率は7:3にします。

校舎内に小僧丸が徘徊しているので出会わないよう祈りつつ買い込んでみると、どこからともなくトラックがやってきてグラウンドを壊し始めます。

何故鉄球を使う必要があるのか、コレガワカラナイ。

このゲームの通貨『熱血ポイント』がなくなるまで買い込んだら、すぐさまグラウンドから離れます。

あの場に戻ってもクソ長イベントが挟まって多少の好感度を稼げる程度なので、うま味はないです。というか、ホモくんの場合無口すぎて好感度すら稼げないかもしれないですね。

うーん、これはチャートが狂うかもしれないですね、覚悟の準備をしておきましょう。

先駆者兄貴が見つつけていた最良の特訓上（周囲に誰も人がいない空き地）に着いたらひたすらボールを壁に蹴り続けます。

この際跳ね返ってくるボールを蹴れると最高効率なので頑張りましょう。

必殺技の習得に關してですが、覚えない技があるならその動きを最大限トレースした方ががむしやらに特訓するよりレベルアップ時に覚える可能性が高くなります。

今回習得したいシュート技は「ソニックショット」と「マツハウインド」のどちらかで、では何故動きのトレースをしないかと言うとホモくんを1秒でも早くレベルアップさせるためですね。

必殺技を習得するのは、必ずレベルアップの瞬間です。

いくら必殺技の特訓をしてようがそれは変わりません（なお覚えられそうな技がなかった場合はステータスが上がるだけです）

のりかが友好キヤラになっている今回、ホモくんが自力でシュート技の練習をしている確率が高いので、下手にトレースをさせるよりレベルアップに賭けようというわけです。

これで風属性じゃなかったらリセえ……ですかねえ。

GPが切れかけたらスタミナドリンクを飲んで蹴り続ける特訓を2時間ほどしていると、左上にレベルアップと技習得の文字が流れます。

チュートリアルをやっていたので早かったですね。

習得したのは……「ソニックショット」です、やったぜ。投稿者：変態糞土方。

ではここで「ソニックショット」の生みの親、南沢先輩の解説でも……

「ここにいたのか誠也！ 大変だ！」

しようと思いましたが通成キャプテンがやってきました。

この特訓場はグラウンドからそんな遠くないので、見つかるのは仕方ないです。そして大変と言われているのに安定の無口ムーブ、歪みねえな。

「サッカー部が、……なくなつた……！」
知ってる。

「流石に驚いたのか目を見開いたホモくんをバックに今回はここまで、ご視聴ありがとうございました。」

Part 2 特訓く伊那国島出発

チュートリアルを終えて一人特訓を行うホモくん。

疲れからか、不運にもサッカー部の廃部を告げられてしまう。

部員を思い全ての責任を負った通成に対し、伊那国中の主、校長不愉快卓が言い渡した示談の条件とは……。

「大会になら、出させてあげても良いですよ」

前回、サッカー部がなくなった事を知ったホモくんは真つ先に校長室に駆け込みました。

このゲーム、ちゃんと主人公にも背景や思考があり、通常大抵の操作は問題なく受け付けてくれるんですがたまにこうして勝手に行動して操作を受け付けなくなります。

ステータスのブレインが高ければそんな事はしなくなりますが、今走ではブレインを上げる（余裕は）ないです。

「スポンサーが付かないサッカー部は廃れていく……この事態を重く見た日本少年サッカー協会はある大会の開催を宣言しました」

「それは、なんですか？」

無口のホモくんには代わって通成が会話してくれます。

これもしかして親密度が高い相手じゃないとホモくん喋らない？ それ結構大問題なんです。

そんな一抹の不安は置いておいて、今のうちに伊那国メンバーのステータスを確認しておきましょう。

こういったイベントシーンくらいでしか確認する暇はないですし、もし誰かが必殺技を覚えていたりしたらチャートの変更も視野に入れる必要があります。

お、のりかが「ウズマキ・ザ・ハンド」を覚えていますね、ホモくんのステータスの高さといひ試走を超える豪運っぷりです。

揺り戻しで親譲りのクズ運が発動しなければ最速ありますね。

やる事が終わったのでプレイ映像を垂れ流しても良いのですが、それでは退屈してしまふ視聴者兄貴もいるでしょう。

そんなみなさまのためにい

原作とのシナリオの違いを説明しようございます。

今作は日野社長のワンマンではなく複数人でシナリオを構成している関係上、所々

……というより根幹から異なる設定が存在し、今冬海が説明している『スポンサードトーナメント』なる大会もその一つです。

簡単に説明するとスポンサーが欲しいサッカー部が全国から集まって試合を行い、強さや将来性をアピールしてスポンサーに付いて貰おうというものです。

スポンサーが付いていなければどこでも出場できるのですが、伊那国は初戦で必ず星章に当たるのでクソゲーってレベルじゃねえぞ！

「明日までに出場するか決めておいて下さい。私もそんなに暇じゃありませんのでね」

伊那国サッカー部が存続できる可能性が出てきてホモくんはウツキウキです。

無言でもそれが伝わってきますね、声に出して、どうぞ。

「みんな、トーナメントまであと一ヶ月だ。特訓するぞー！」

おー、とみんなで張り切っていますが、ホモくんには例の空き地で一人寂しく練習してもらいます。

グラウンドがないのでサッカーバトルが出来ないので、現時点では一人で特訓するのが最高効率だからです。

好感度が足りなくなるんじゃないかと心配する視聴者兄貴もいるでしょうが、心配ありません。

「おい、なんでお前、こんなド田舎に来たんだよ」

はい来ました、こうしてあっちから絡んできてくれるから心配ないんですね。

最初に絡んでくるのが小僧丸というのは試走と同じなのでありがたいです、ガバの原因は大抵が好感度の調整ミスによる原作キャラの暴走なので。試走で女性キャラの好感度調整ミスって告白イベントなんて起きた日にはアンチになりました。

そしてホモくんの返答ですが、『……答えたくありません』にします。

オリキャラは伊那国生まれになる事が多いのですが、ホモくんは引越してきたようですね、レベルファイブ特有の重い過去を持っていない事を祈りましょう。

家で母親に話しかければホモくんの背景設定も知れますが、単にロスなのでしませ

ん。
「ま、俺も似たようなもんだから喋りたくねえならそれでいい……なあ、お前はあのチームにスポンサーが付くと思うか？」

アニメでは伊那国に来た理由が語られなかった小僧丸ですが、グレートロードではちゃんと明かされます。

豪炎寺に憧れて過酷な特訓を繰り返して足の骨を折り、それを心配した両親が一度サツカーから離れて欲しいと願い伊那国に一家で引越した、というものです。

しかし小僧丸の豪炎寺への熱は冷めておらず、豪炎寺と戦う機会を渴望している状態ですね。

「あいつらは素人の集まりだ。FFに出るどころかスポンサードトーナメントとやらで勝ち進む事も出来ねえだろうな」

これ、小僧丸の話を要約すると『一緒に伊那国の奴ら強くして全国行こうぜ』とホモくん提案しているだけです。

ちよつと前置きが長すぎんよ、ホモ特有のせつかちさを見習つて、どうぞ。このゲームではせつかちよりおくぼーが評価される(幻聴)

じゃけん前パートで打ち込んでいたラインを小僧丸に送信しましょうね、何かわからんがくらえッ！(別人)

「お前これ、練習メニューか？ しかも一人一人メニューが違え……」

はい、あの時ラインに打ち込んでいた文章は特訓メニューだったんですね。

先駆者兄貴達が開拓と研究を繰り返して完成した代物です、正確さが違う。

一日を費やしてでも文章の暗記と早打ちの練習をする価値があります、というかしないと最速狙えません。

「ハッ、温いサツカーで満足してる腑抜けヤローかと思つたが違うらしいな」

当たり前だよなあ？ と小僧丸の言葉に対しニヒルに笑うホモくん。

これで小僧丸の好感度はしばらく気にしなくて良い程度に上昇しました、ホモくんが特訓に励んでいれば下がる事もないので実質一生安泰です。

堕ちたな（確信）

その後は二言三言で去っていくので、ホモくんも折を見て帰りましょう。

特訓メニューをグループにも送信し、あらかじめ説明しておくタイム短縮になります。

「おかえり〜。部活どうだったー?」

ホモくんは反抗期なので帰宅しても親と会話しようとしません、（良心が）痛いんだよお!!

夕飯を掻き込んで風呂入って筋トレして歯磨いて寝ます、現時刻は22時半なのでタイムは5時半に設定しておきましょう。

おはよー!!! カンカンカン!!! 起きて!!! 朝だよ!!!! すごい朝!!! 外が明るい!!!
 カンカンカンカンカン!!! おはよ!! カンカンカン!!! 見て見て!!! 外明るいの!!!
 外!!! 見て!! カンカンカンカンカン!!! 起きて!! 早く起きて!! カンカン!

はい、アラームが鳴ってから3分後にホモくんが目醒めました。

これはRTAという事をもつと意識してもらいたいですね、3分もあればカップ麺は

作れるし試合の決着も付けられます（付けられるとは言っていない）

この時間は必ず親が寝ているのでユニフォームに着替えて外に出しましょう。

朝食はプチサンドとスタミナドリンクがあるので必要ありません、一日に摂取できる量に限りがあるのでいらぬものを腹に入れる余裕はないです。

では今回も空き地……ではなく、伊那国山の麓に向かいます。

ある必殺技を覚えるためですね、終盤まで使える有用技なのでこのタイミングで覚えようというわけです。

余談ですが、この時間帯は万作雄一郎が父親の手伝いで漁に出ているのでスタート地点が港近くの場合はリセです（無敗）

麓にいったらボールを取り出し、壁キックの要領で木を蹴り続けて山頂を目指しましょう。

リアルルの壁キックと違って手を使ってはいけません、イナイレ世界の身体能力があつて出来る芸当ですね。

コントロールが低いのでしょっちゅう落下しますが、何が何でも受け身を取って怪我だけはしないようにしましょう。

故障なんてしたら目も当てられないので走者の腕の見せ所です。数値とかではなく

反射神経や動体視力が試されるのでこれが中々……難しいねん……。

この特訓をしないチャートもありますが、のりかが友好キャラなお陰でキックの練習をしなくても僅かに余裕があったのと後の安定を取りました。

これを8時までやったら着替えて学校に行きましよう、汗と泥まみれですがなんと伊那国中にはシャワールームがあるのでそれを活用します。

これを怠るとモチベの低下でホモくんの動きが悪くなってしまうので必須です、ホモは綺麗好き。

その後の授業はオールスキップです、真面目に取り組めば取り組むほどブレインに補正がかかりますがそんなものはフヨウラ！

G Pでも回復させるために爆睡をかましましょう、一年目からこれとか先生は涙がで、出ますよ。

「今日からは俺も特訓に参加させてもらう。良いよな、通成」

「あ、ああ、それは歓迎するが……珍しいな、お前が参加するなんて」

「フン。事情が変わった。それに、あいつの作った練習メニューが本当に最適なのかも確認しておきてえ」

久しぶりに部活動に参加する時って申し訳なきで一杯なのですが(体験談)、小僧丸は

そうではないようで傲慢な態度を崩そうとしません。

ちなみにホモくんはちよつと遠くで縄跳びしてます、お前陰キヤかよお!?

マジレスすると普通に時間の無駄だからですね、みんなすげー訊きたい事があるって顔でホモくん見てますけど。

好感度が高くないとこの場面で話しかけてこないのは確認済みなのでキリが良いところまで倍速

「ねえ細谷、ちよつと良い?」

なんで話しかけてくる必要があるんですか (憤慨)

親密キヤラであるのりかが話しかけてきました、いやまあ「ウズマキ・ザ・ハンド」を覚えるほど好感度が高ければこのパターンがあるのはわかっていたので問題はありません (負け惜しみ)

『何……?』と聞き返しておきます、やはりのりかが相手だと若干喋りやすいですね。お前ノンケかよお!

「昨日から無茶してない? 辛そうだし昼休みとかずつと寝てたし……。なんか、余裕なさそうだよ」

(RTAなんだから) 当たり前だよなあ?

『別に』が理想解だと思うのでこれにしますが、何か引つかりますね。

試走ではこのタイミングでのりかがホモくんを気にかける事は一度もありませんでしたので。

「……ふーん、じゃあ良いけど。でも絶対、無茶はしないでよ？」

うーん、wikiにも載ってませんね、このパターン。

……ママエアロ、まだ明確なロスは発生してませんしこの先全てノーマスなら釣りが来るので続行します。

では気を取り直して倍速です。

「なあ、本気かよ細谷。俺らみんなで攻めてこいつて」

等速に戻りました。

今しているメニューは剛陣鉄之助、通成、奥入祐、服部半太からの攻めをホモくん一人で守るといふものです。

普通ならこ無ゾですが、誰も必殺技を覚えていない今だけなら可能です。

剛陣の言葉に領きましよう、最初は不安視していた無口もキャライベ時以外は便利だろうん、おいしい！

「よし、そんなら遠慮なく行くぜええ！」

彼らのボール回しをホモくんが「スパイラルドロ」で阻止しているのを垂れ流しながら、この特訓のメリットをお話しします。

まず、このゲームでディフェンス技を鍛えるには誰かのドリブルを阻止する他ありません（【真空魔】等の例外はありますが、やはり対人の方が熟練度効率率は上）

ホモくんには世界に行く前にはDFに専念してもらおうので、DFの特訓が出来る時にやっておきましょう、でないとFWとして世界と戦わなければいけなくなります（4敗）
他にはDFのモチベ向上のためですね、ホモくんが部活に参加すると『後輩がこれだけ頑張ってるんだから、自分ももっと頑張らないと』と思いやる気を出してくれます。
ホモくんはタカキだった……？

FFは攻撃力が尋常でない選手がゴロゴロいるので、防御力は盛れるに越したことはありません（盛るペコ）

部活が終わったらスタミナドリンクをがぶ飲みしながら例の麓に向かいます。
シュート練はしなくて良いのかと疑問に思う視聴者兄貴もいるでしょうが、【ソニツクショット】はあくまで保険です。

本命は別の必殺技にあるのですが、それを覚えるためには【スカイウオーク】を習得する必要があります。

なので動きのトレースのために空気の足場を木に見立てて特訓しているというわけですね。

計算だところら辺で……はい、スタミナドリンクが切れました。

GPが0になると走る事が出来なくなり故障する確率も大幅に上がるので帰宅します、健康が第一つてそれ一番言われているから。

帰宅したら親にお金をたかりましょう、バイトもといクエストはありますがこれが一番早くて楽です。

お母さん！ スタミナドリンク買うからお金ちょうだい！

「お金？ 良いけど何に使うの？」

『スタミナドリンク。最近すごい使うから』とえば結構なお金を貰えるので序盤の熱血ポイント不足はこれで補いましょう。

あとはこの生活を一ヶ月繰り返すだけなので、倍速です。

くホモくん苦行のテーマ視聴中く

はい、2週間ちよつとが経過しました。

レベルアップして「スカイウォーク」と取得経験値と熟練度が上昇しやすくなる《学習》を習得したので、これで伊那国でやっておく事はなくなりました。

試合がないので手に入る経験値が微々たるものなんですよね、次にレベルアップ出来るのは星章学園戦です。

つまり倍速なんですけど……なんかイベントが挟まりました。

あれーおかしいねこのタイミングで挟まるイベントなんてないはずなのにね（すつとぼけ）

「細谷……もしかしてそれ、毎日やってるの？」

伊那国山の頂上でホモくんが休憩していたら明日人が話しかけてきました。

毎日一定以上のGPを消費していると確率で発生するイベントで、RTAではほぼ確定演出です。

明日人が出現しない場所で特訓すれば良いのでは？ と訝しむボブ達もいるでしょうが、それは不可能です。

何故なら明日人の追跡性能がずば抜けてるからです。

どれだけ注意を払おうと、明日人がホモくんを怪しんだ時点で詰みです、ああ逃れられない！

原作アニメでも初にして探偵顔負けの追跡をしたのでその設定を拾ったのでしよう、そんな事しなくて良いから……。

「俺さ、細谷が作ってくれたメニユーで強くなったと思ってた……でも、違ったんだ」

さて、RTAで100%発生するという事は、当然対策も立ててあります。

が、今は明日人の心情を吐露させておきましょう、その方が好感度は稼げるし後々楽になるしと大変うま味です。

「昨日、星章の試合見たんだ。そしたらみんな、俺なんかより全然強くてさ……勝てるの
かなって思った」

（勝てるわけ）ないです。

「どれだけホモくんや明日人達を強化しようがそれは変わりません、単純に時間がない
んですね。」

グレートロードは以前までの作品と違い、次の目標までの時間制限があります。

ポケモンでいう序盤の草むらでレベル99がどう足掻いても出来ないんですね、いや
可能でもRTAなのでやりませんが。

「小僧丸と細谷が鍛えてくれても、俺じゃ無理だよ……2人の期待に、応えられない」
理想解出てくれよなく頼むよ、出ない！ 無言！

仕方ないので一から文字を打ち込みましょう、『明日人先輩は、スポンサーが付いて欲
しくてサッカーしてるんですか？』

「え……？」

続く言葉は『僕はみんなと、本土の人たちとサッカーがしたいからサッカーしてます』

にします、よくよく考えたら選択式会話じゃないのに最適解がwikiに載ってるってすごいですね。

やはり先駆者……先駆者達は全てを解決してくれる。

「サッカーが、したいから……」

『先輩は違うんですか?』と言うと明日人は立ち直ってくれるので、これでこのイベントは終了です。

報酬は明日人が一緒に特訓するようになります、一見ロスのように思えますが、彼のステータスと好感度を上げるのはメリットになります。

というのも、好感度が高いと明日人が掴んだ諸々の秘密を喋ってくれるんですね、いくらホモくんを自由に動かせると言っても何も知らないんじゃないと思うように動いてくれません。

仮に情報なしで敵の拠点に入ったとしても『なんで僕はこんな所に……戻ろう』となつて操作を受け付けてくれなくなるんですね。

あと、オリオンの刻印編で明日人の闇堕ち（闇堕ちするとは言っていない）を回避できます、これをスキップできたらかなりのうま味なのでそれまでの会話やイベントは許容しましょう。

さて、ここからは特にイベントも見所もないので倍速です。

「誠也ー！ 頑張つてねー！」

出航イベントまで来ました、余計なイベントがなくてうん、おいしい！

船に乗るホモくんにも両親からのエールが送られるので両手をぶんぶん振つて返しましょう。

ホモくんが船酔いではない事を祈りつつ今回はここまで、ご視聴ありがとうございます。

第一話 それぞれにとつてのサッカー

伊那国サッカー部。

練習試合すら行ったことが無い、孤島で細々と活動するだけの弱小チーム。

小僧丸サスケはそんなサッカー部のエースストライカーであり、幽霊部員だった。

「スパイラルドロロー」

「うおっ!」

細谷誠也が、手慣れた様子で剛陣からボールを搔つ攫う。

そんなここ毎日行われている風景に、小僧丸は二階の廊下でため息を吐いた。

弱すぎる、あまりにもレベルが低い。

小僧丸にとつて彼らのしている事はサッカーではない、遊戯だ。

本気で勝ちを目指さず、のほほんと腑抜けて、拳句にはあれで本土と戦いたいとのたまう始末。

「クソ……」

イラつくのだ、身の程も弁えない雑魚が粹がるのは。

そんな雑魚と温いサッカーをする、細谷にも。

「あんな奴らとするサッカーなんて、意味ねえだろ」

小僧丸と細谷は同時期に伊那国島に引越し、そして同じ日にサッカー部に入った。けれどその先は、真逆だ。

わずか2日目から幽霊部員となり、サッカーに対するモチベーションすら失せかけている小僧丸、熱心に部活動を続け、今でも真摯にサッカーに向き合っている細谷。

別に羨ましいと思つた事はない、ただ不思議だった。

何故、こんな八方塞がりの島でサッカーを続けられるのか。

自分の思いが彼に負けてるような気がして……それも、細谷への嫌悪を募らせる要因だ。

そんなある日、唐突にサッカー部が潰れた。

トラックによってならされていくグラウンドを見て、小僧丸は漠然とした不安を抱いた。

この風景が、未来の自分を暗示しているような気がして。

このまま豪炎寺に挑戦するという夢を果たす事なく、小僧丸が見下している者達と狭い島でのうのうと過ごし続けるのか？

答えは否だ、そんなのが許されるはずがない、他の誰でもない自分が許さない。

聞けば、一ヶ月後のスポンサードトーナメントに伊那国サッカー部は出るらしい。

(そこで勝ち進んでスポンサーを付かせるしかねえ。だが勝てるのか、あの面子で) 試合に出るという事は本土と戦うという事。

当然、強いチームもゴロゴロいるだろう(案の定、初戦はランキング1位の星章学園であった)

この短時間で伊那国サッカー部を強化するとして、敵うのだろうか。

(……あいつは、どう考えてんだ?)

ふと、細谷の存在が頭に浮かんだ。

伊那国で特出した実力を持つ彼は、この問題にどう対処しようとしているのか。

気になった、故に話を聞く事にした。

「はあ……はあ、【ソニック、シヨット】オ……!」

まともな明かりが存在しない伊那国島では深夜帯とっていい、21時。

細谷は一人、学校近くの空き地で特訓をしていた。

かれこれ3時間ほど。

(……どうなってるんだよ、あいつの体力)

必殺技を持つ小僧丸にはわかる、あの疲労しながらも淡々と行われている行為が如何に狂気的なものなのか。

あれだけの回数だ、全身は鉛のように重く、呼吸するだけで肺が痛み、もうやめてくれと心が訴えているのだらう。

それでも細谷は止まらない、尋常でない汗をかき、膝を震えさせ、ユニフォームを汚してなおボールを蹴り続ける。

「……お、」

見ていられず、小僧丸は声をかけた。

それは細谷の体を心配してのものではない、自分がしてきた努力が『足りないぞ』と言われているような気がしたのだ。

「なんでお前、こんなド田舎に来たんだよ」

細谷の動きが止まり、瞳の焦点を小僧丸に合わせる。

そしてスタミナドリンクを飲みながら、たつぷり数秒かけてこう答えた。

「……答えたくありません」

「ま、俺も似たようなもんだから喋りたくねえならそれでいい……なあ、お前はあのチームにスポンサーが付くと思うか？」

別に細谷が伊那国に来た理由など小僧丸も興味がない、ちよつとした前座だ。

本題は、細谷がスポンサードナーメントをどう思ってるか。

しかし返事は返ってこない、考えているのだろうか、夜なものに加え無表情なせいで感

情が読みにくい。

「あいつらは素人の集まりだ。FFに出るところかスポンサードトーナメントとやらで勝ち進む事も出来ねえだろうな」

暗に俺と細谷だけなら勝てるかと伝えながら、この絶望的な現状を問う。

正直な所、小僧丸にも明確な答えは出ていない。

彼らを特訓するのか、それとも、初めから見捨てるのか。

しかし、細谷の答えはもつと先を見据えたものだった。

唐突に細谷がスマホを操作し始め、小僧丸のスマホが鳴る。

誰からの送信かは、明らかだった。

(口で良いだろ。なんでわざわざラインなんだ)

その面倒くさいや煩わしいといった感情は、ラインの文面を見て一瞬で吹き飛んだ。

「これ、練習メニニューか？ しかも一人一人メニニューが違え……」

記載されているのは伊那国サッカー部全員の名前と、練習メニニュー。

それだけ、それだけだが、小僧丸にはそれで十分だった。

(こいつ、伊那国の奴らを鍛えるのは大前提で、その先まで考えていたのか!? ずっと前から!)

正直な所、頼られると思っていた。

どうすれば良いのかまではいかなくとも、一緒に練習メニューを考えてくれと懇願されるくらいには。後輩が先輩に頼るのは自然なのだから。

しかし違った、後輩は先輩なんぞより広く、深く物事を考えている。

「ハッ、温いサッカーで満足してる腑抜けヤローかと思っただが違うらしいな」

かろうじてその言葉を捻り出したが、果たして真の腑抜け野郎はどちらなのか。

伊那国サッカー部の弱さに呆れ、自分はこの中では一番なのだと思ひ込み、まるで井の中の蛙だ。

いや、外の世界本土を知っている分、余計愚かだ。

そう一人打ちひしがれていると、細谷から声がかかる。

「協力して下さい、小僧丸先輩」

「協力、だと?」

「僕達には強いFWがいないので」

言葉数は少ないが言いたい事はわかる。

スポンサードトーナメントに出てくれと言われているのだ、確かに、小僧丸は出るとは一度も言っていないかった。

「勿論、俺もトーナメントに出る。明日からの練習にも顔を出さずぞ」

「良かったです」

そうして、細谷は特訓に戻った。

一分一秒を無駄にしたくないとでも言わんばかりのその気迫は、小僧丸の心に火を焚べる。

(認めてやるよ。俺は……逃げた)

それはサッカーから、すべき努力から、そして恩師の言葉から。

けれど今は違う、久しく忘れていた熱が、全身を駆け巡っている。

『お前は良いFWになれる』そう言ってくれた恩師の言葉を嘘にはしない。

そしてもう二度と、豪炎寺に胸を張れない事はしない。

細谷あいつのように真摯にサッカーに向き合うのだと、小僧丸は一人夜空に誓った。



最近、細谷の様子がおかしい。

そう海腹のりかに相談された稲森明日人は、人一倍の練習メニューをこなす細谷に視線をやりながら考える。

(確かに前より頑張ってるけど、そんなに気になるかな……?)

実の所、明日人はあまり細谷と交流がない。

部活動で話す機会はそれなりにあれど、あちらが無口な事も相まって仲が良いとは言えなかった。

だから、それは偶然だ。

深夜か早朝か区別に困る時間、学校に忘れ物を取りに行く途中で、伊那国山の麓に駆けっていく細谷の姿を見たのは。

のりかの言葉が反芻される、明日人自身も気になっていたため彼の後を付けた。

「嘘お……」

そうして見たのは、ボールを的確にキープしながら木を伝っていく細谷の姿だ。

伝っていくと言っても手は使っておらず、それでもかなりのスピードで進んでいる。

どんな体幹と反射神経とボールキープ力と勇気があれば、あんな曲芸が成せるのか。しかし見惚れるのは後だ。

部活動で疲労している足に鞭を打って、明日人も全速力で山頂に向かった。

「ゲホッ……はあ、はあ、はあ……」

山頂まで着くと、慣れていそうな細谷でも流石に疲れたのか、木にもたれかかって体力の回復に専念している。

今を逃せば明日までタイミングはないだろう、明日人は息を整えて話しかけた。

「細谷……もしかしてそれ、毎日やってるの?」

細谷の上半身が明日人の方を向き、両目が驚愕で見開かれる。

まさか付けられているとは思わなかったのだろう、そんな心情がありありと伝わってくる。

「……はい」

「そうなんだ、凄いな」

隣に座つたは良いものの、会話が途切れた。

気まずい、これは自分から話題を出さないとキャッチボールが始まらないと察して、明日人は口を開く。

「俺さ、細谷が作ってくれたメニューで強くなったと思つてた……でも、違つたんだ」

細谷は黙っているが、明日人をじつと見て話を促している。

「昨日、星章の試合見たんだ。そしたらみんな、俺なんかより全然強くてさ……勝てるのかなつて思つた」

こんな弱音、後輩に吐くべきではないのだろう。

けれど、

「小僧丸と細谷が鍛えてくれても、俺じゃ無理だよ……2人の期待に、応えられない

……」

一度言ってしまったものは、止まらない。

(何言ってるんだろ、俺。こんなの細谷に言う事じゃないのに)

しかし訂正する気にはなれない。

本来頼ってはいけない者が、なんと言うのか気になったからだ。

そして、変わらず瞳孔に明日人を写したまま細谷は口を開く。

「明日人先輩は、スポンサーが付いて欲しくてサッカーしてるんですか？」

「え……？」

「僕はみんなと、本土の人たちとサッカーがしたいからサッカーしてます」

「サッカーが、したいから……」

驚いた、無口だと思っていた後輩が予想以上に饒舌なものもそうだが、的確に胸の裡うちを暴かれた事に。

そうだ、明日人は星章学園と戦うのが嫌なのではない、そこでサッカーが出来なくなってしまうのが嫌なのだ。

強敵と戦えるワクワクが、スポンサーという重荷に押しつぶされている。

細谷は、それがわかってこんな助言をしたのだろうか。

いや、今はそれはどうでもいい。

「先輩は違うんですか？」

「俺も！ 戦いたい！」

前々からずっと思っていた、本土のチームと戦ってみたいと。

ならば萎縮して、プレッシャーに押しつぶされている場合ではない。

精一杯楽しむのだ、負けたらおしまいなんて思うな、まだ見ぬ強敵たちに思いを馳せろ。

「だから俺、強くなりたい。強い奴らと全力で戦えるようになりたいんだ」

「先輩ならなれます」

「でも、今のままじゃ無理なんだよね？」

答えは肯定、そりゃあそうだ。

今までずつと本気でサッカーを続けているチームに、ただか一ヶ月で追いつけるはずがない。

だが、距離を縮める事は可能だ。

「細谷、俺も同じ特訓やるよ。良いかな？」

またも、答えは肯定。

興味なさげだが、彼も自分達と同じように“熱”を持っていると明日人はわかっている。
る。

(見ててよ、母さん、父さん。俺、絶対強くなるからさ)

気付けば、太陽が顔を覗かせていた。

part 3 星章学園戦〜雷門中転校

負けイベントに必死に抗うRTA、はーじまーるよー。

今回は伊那国で友情を育んだ所から。

心なし明日人と小僧丸の好感度が高い気がしますが、これからホモくんの奇行によってガンガン減っていくので問題ありません。

さて、船を降りたらダッシュで商店街まで向かきましょう。

目当ての品はがくしゅうペンダント、文字通り経験値効率が上昇するアイテムですね。

これを付けて星章学園戦に臨みます、レベル差もあって元よりかなりの経験値を貰えるので必ず付けましょう。

ちなみに、なんらかの事情で商店街に行けない場合、リセするほどではないですが非常にまず味です。

だから船酔いしないようにお祈りする必要があるたんですね（メガトン構文）

ホモくんのお小遣いだけでは流石に全員分は買えないので、あらかじめ部員に声掛けしてお金を貰っておきましょう。

好感度が低いせいで貰えなかった人の分はホモくんが払います、後輩に甘える先輩の屑。

ペンドラントを買ってバスに乗り込んだらイベントが始まります、操作できるようにするのは試合開始直前です。

「わーっ、ありがと！ 細谷！」

「ハッ、試合も始まってねえのにもう観光かよ。お前、意外と余裕だな」

「まあまあ、試合に支障が出るわけじゃないんだし問題ないだろう」

「伊那国にはこういう嗜好品？ みたいなのないしねー」

「なんか、少しキツイでゴス……」

正直な話、明日人以外にペンドラントを渡す必要は（ない）です。

イナズマジヤパンに選ばれるメンバーが毎回ランダムで、伊那国から確定で選出されるのが明日人だけだからですね。

じゃあなぜそうしなかったかと言うと、全員の好感度を上げるためと親からのお小遣いが想定以上に溜まっているからです。

要求すれば要求するだけお金をくれたので、序盤で金策をする必要がなくなりました。やったぜ。

これはサツカアの女神が走り抜けと囁いてますね間違いない。

そうこうしてる内にグラウンドに着きました。

控え室でポジションなどのおさらいなど終わると、いよいよ試合開始です。

タッチペンをだせ！（幻聴）

控えにいるホモくんを奥入と入れ替えましょう、MF採用ですがガンガンゴールを狙ってもらいます。

本当なら火属性FW三人衆のうち誰かと入れ替えたかたのですが、全員がイナズマジャパンに選ばれる可能性があるのでスタメンにして経験値を稼いでもらいます。

まるでエルドラドチーム02だあ（直諭）

ボールは伊那国からなので、とりあえずパス回しに専念してもらいたいのですが……無理ですね、ホモくんじゃ指示出し出来ません。

みんなガンガンやろうぜって感じで突っ込んでいきます、例外は明日人と小僧丸、それと通成ぐらいでしょうか。

出来ればシュートを打ちたいですが、星章は無印の帝国やジェミニストームと違い最

初から（そこそこ）本気でゴールを狙いに来るので相当難しいです。

が、不可能ではありません。

初見殺しで一回くらいは可能なので、とりあえずボールを貰って一人で前線に切り込んでいきましよう。

たまにパスだ！と言われますが渡すメリットが欠片もないので無視です、せめてトラップミスの確率を0%にしてくれよなく頼むよ。

ちなみに「スカイウォーク」は使いません。

ここで使ってしまうと情報が洩れ、みのとうさんちゅう美濃道三中に対策されてしまうので自力で防衛

をぶち破ります。

決して簡単ではないのでウデガナルゼーと言いたい所さんですが、ホモくんのステが高いのとレベル差がほとんどないせいであんまり苦労しないですね（当社比）、走者を気遣うホモの鑑。

まあ（チュートリアルだし簡単なもの）多少はね？

と、DFラインの直前まで来ました。

相手の注目はほぼ全員ホモくんに集まっています、鬼道有人がいれば多少は違ったのでしょうか、今の星章に彼ほどのゲームメイカーはいません。

というわけでほぼノーマークの小僧丸にパスを出します。

ただのパスでは防がれる可能性があるがあるので、めっちゃ高いループパスです。普通なら届きませんが、

「ナイスだ細谷。『ファイアトルネード』！」

「『ファイアトルネード』で高さを稼いだ小僧丸ならギリギリ届きます、シュートチェインのようなものですね。」

ちなみに小僧丸には何も伝えずとも、前線付近で彼にルーズボールを出せば必ず「『ファイアトルネード』」を使ってくれます。

小僧丸こいっすげえ（ボールへの嗅覚が）変態だぜ？

D f ホモくんではゴールを奪えないこと、経験値が欲しいこと、最速のイベント挿入、これら全ての要望にマッチするよう作成したチャート通りです。

決してガバではない、これだけは真実を伝えたかった。

パツリイーン!!（植木鉢とゴールが割れる音）

これで伊那国が先取点です。

植木鉢ゴールが割れてんだよなあホモくんのせいだよなあ。

悔しいでしょうねえ。

まあその代償にホモくん徹底マークが付けられて二度とボールに触れないんですけどね、初見さん。

ボデイが低いため抵抗のしようもありません。ああ逃れられない！

何もしないよりは動いていた方が経験値をもらえるので適当に暴れておきましょう。

離せコラ！（棒読み）

後は静観してただけで試合が終わるので、明日人が灰崎にボコボコにされるのを眺めます。

というか、スポンサーに付いて貰うための試合であんな危険なプレーして良いんですかね？

鬼道か監督の久遠道也がベンチウォーマー灰崎にさせてもおかしくないと思うんですが、そうすると明日人との因縁が出来ない、つまりシナリオが成立しないのかなのでしょうか。

ちなみにここでホモくんが出張ると灰崎に目を付けられ、この試合だけでなく後々のタイムにもかなり響いてくるので絶対に……しないようにしようね（格言）（一敗）

「うぜえんだよ！」

「うわあつ！」

明日人が吹き飛ばされ、DF陣が抜かされ、ゴールチャンスを許してしまいます。

のりかは必殺技を使えますが、灰崎のキック値が高すぎてロクに反応できないでしょう、これはクソザコサザエ。

このままゴールを許し……ん？

「ぎ、せるかああ!!」

はえへっすつごいおつきい（豪運）

なんと明日人が爆速で戻って灰崎にチャージをかけました。

普通は出来ない、というか試走で追いつけた事なんてなかったんですけど……よく見ると若干雷を纏ってますね。

ホモくんの特訓に参加したのが早期だったため、「イナビカリダッシュ」習得フラグがこのタイミングで立ったようです。

でもこの試合は一点入れられたら後はイベントなので、この時間稼ぎはんまあそう……あんまり美味しくないかな。

とはいえ、この拮抗状態は全てが全て悪いわけではないです。

アツウイ！ 魂がぶつかり合って良い感じに雷門魂が上昇しているからですね、詳しくは後述。

と、流石にステータスが違いすぎるため振り解かれて「オーバーヘッドペンギン」を打たれます。

一応【デスゾーン】も覚えていますが、今の灰崎は星章を信頼していないので使えません、これも原作と違う点ですね。

「ウズマキ・ザ・ハンド」！……きやああっ！」

初出の必殺技が破られるとかもう許せるぞオイ！

というわけで同点に追いつかれました。

後はイベントムービーで伊那国がボコボコにされる所を眺めるだけです。

土壇場の必殺技覚醒とかもないので、マジでボコられるだけです。悲しいなあ。

『……で試合終了です！ 1対10と、星章学園、優勝候補の風格を見せてくれました！』

伊那国中学校もとても健闘した、素晴らしい試合でした！』

チュートリアルで負けるとか辞めたくありませんよ！サツカー。

しかしまだイベントムービーは終わらず、控え室で再度操作可能になります。何もせず壁に寄りかかっておきましょう。

みんなスゲーツマジでお通夜状態ですね、まあこれで本当の意味で希望が潰えたので気持ちは分からなくもないですが。

ちなみに一番荒れているのは小僧丸です、せつかくみんなを鍛えたのにたった一試合で無駄になったので無理もないですね、とりあえず落ち着け黒騎士^{小僧丸}。

「あー！ 楽しかった！」

「明日人……?」

お、伊那国島で明日人のメンタルを前向きにした成果が早速出ましたね。

ホモくんが出張らなければならぬ場面が減つたりするので、縛りでもなければやっておきましょう。

そして案の定小僧丸が突っかかります。

「確かにFFには出れないけど、だからってサッカーが出来なくなるわけじゃないんだ」「だから負けても仕方なかった。そう言いてえのか、明日人」

「そうじゃない! ……俺だって、めちやくちや悔しい。けど楽しかった! いつか絶対、追いつきたいって思った」

「っ! 出来ねえんだよ! これが、俺たちがFFに出れる最後のチャンスだったんだ……!」

しばらくのレスバの後、小僧丸がグラウンドに駆け出しました。

イナイレ主人公相手にレスバで勝つのは不可能ってそれ一番言われてるから（負けるより折れるというのが正確）

とりあえず追いかけましょう、ここで真つ先にグラウンドに着くと個別イベのフラグが立つので一番後ろで。いや一応子供向けゲームなのになんつー場所にフラグ立ててるんですかねレベルファイツ。

「テメエは良いのかよ！　こんなのが最後で！」

ホモ君がグラウンドに着くと、明日人と小僧丸がサッカーボールを蹴り合っている現場を目撃します。

頭おかしいよこの人（達）……。

ちなみにまだスポンサードトーナメントは終わっておらず、観客も普通にいますが誰も気にしていません。

甲子園で負けたチームがグラウンドの砂をかき集めているのと同じようなものなのでしょう、おそらく。

「良いわけないだろ!?　でも、これが今の俺たちの全力だったんだ！　楽しかったって思うのが、そんなにだめなの!?!」

蹴り返す明日人、ていいうかなんでボールを蹴り合ってるんですかね（素朴な疑問）

「FFで豪炎寺さんと戦えなきや、俺にとつては何の意味もねーんだよ……!?!」

「ほーっほっほ、なら、貴方達にチャンスあげましょ♪」

なんだこのオッサン!?!

と、なかなかの勢いで行き来するボールを上から踏み潰して登場したのは、チョウキンウンズというクソダサチームの生みの親、趙金雲です。

マスクデータである雷門魂が一定量溜まっていると、ここで趙金雲が登場して雷門へ

の転校を進めて来ます。

雷門魂はサッカーへの意欲や（イナズマ）チャレンジャー精神を試合中に見せれば溜まるそうです、あくまで有志の検証ですが。

通常プレイではこのタイミングで趙金雲が来る確率はほぼ100%なのに、消極的な試合展開になりやすいRTAでは70%程度に低下するのを疑問に思った先駆者があり、そこから雷門魂という概念が生まれました。

だからといって400回も試行回数を重ねるのは頭おかしい……（小声）と、サラツと流しましたが伊那国はこのタイミングで雷門に転校します。

その許可を得るために一度伊那国島に戻るので、ここが序盤における一番の運ゲーポイントです。

親がどれだけ簡単に許可を出してくれるかわからないからですね、サッカーゲームなので最終的には許可が下りますが、クソ長いイベントが挟まる可能性も十分あります。

というわけで頼んでみましょう。

「……本当に、変わったのねえ、誠也」

目を見開いた後、そう言っただけで微笑みをたたえるホモくん母。

これは……当たり前でしょうか。母親のパターンは下手に原作に縛られないせいで、細分化されすぎて完全に運です。

「のりかちゃんのおかげかしら。ええ、良いわ。転校を認めましょう。大丈夫なのね？」
大丈夫だって安心しろよ。ヘーキヘーキ、ヘーキだから！ という意を込めて頷きます。

ついでお金もとい熱血ポイントもねだっておきましょう、星章学園戦はレベル差があつたので経験値を多くもらえましたが、取得熱血ポイントは少なかつたので。

「ふふ、まるで饑別ね。じゃあはい、頑張るのよ?」

ファツ!? かなりの熱血ポイントをポンと渡されました。

なんだこれはたまげたなあ……試走含め一番財布の紐が緩いです、というか異常です。

女神様が味方していると言えど、流石に少し変ですね。

揺り戻しが非常に怖いので、チャート進行により一層注意を払っていきましょう。

人はチャートを守るんじゃない、チャートに守られているんだ。

それは一旦置いておいて、雷門に引越すまでの一週間、ホモくんには引きこもり気味の生活を送ってもらいます。

伊那国メンバーに遭遇すると『一緒に親を説得してくれ』や『雷門に転校なんて大丈夫かな』と相談されてクエストが発生してしまうからですね、ほっといても問題ないので放置です。

が、明日人だけは一度様子を見ましよう、なにせ母親が死んでメンタルが不安定なので。

「……細谷……」

(話が) なげーよホセ (先手必勝)

明日人は母親の墓の前で項垂れてました、この様子なら精神デバフの心配はありませんが、話しかけた以上会話口スが生まれてしまいます。

だからといって放置は流石に怖かったので、必要経費と割り切りましよう。

「うっ……ぐううう、ああああああ……!!」

こんな状況でも会話選択肢の3/3は無言です、下手に台詞があっても困るので問題ないです。

ちなみに慰めの言葉はいりません、もつと落ち込んでたりしていたら別ですが。

「……ごめん、少し、考えがまとまらなくて……」

スポ根モノの主人公のメンタルをこんな序盤で折りにかかるとか、こいつスゲエ変態だぜ?

実際原作だとここで明日人の母親を退場させる必要ない……なくない?

「母ちゃん、結構前から体悪くなつてたらしくてさ……俺が精一杯サッカー出来るように、黙ってたんだって」

お前重いんだよ！（過去）

明日人の弱音は話を聞くだけで自己解決してくれるので領くだけです、まとめると『母ちゃんは俺の夢を応援してくれていたから、俺もてっぺん夢を叶えられるになれるよう頑張る』という内容です、意識しまくりですが。

「……小僧丸の事、馬鹿に出来ないや。そうだ、楽しむだけじゃない、強くなりたい。強くなつて、俺、サツカーのてっぺんに立ちたいんだ」

工事完了です。

先駆者兄貴達のお陰で豪炎寺医師に引けを取らない治療が可能となつたホモくんに治せない者はいません。

影山零治でもミスターKでも黒岩流星でもどんと来いです（なおタイム）
と、これで伊那国でやっておく事は終わったので雷門まで倍速です。

くホモくんアレオリ視聴中く

雷門の校門前に着きました。

これマジ？（一年前と比べて全体的に）綺麗すぎるだろ。

エイリア学園に襲撃されてないのに校舎を全面改修とか、どれだけ金持つてるんですかね。

「なんか、俺らあんま歓迎されてなくねえか？」

「そりゃあそうですよ、今や全国で知らぬ者なしの雷門サッカー部に、無名で素人も良いところの僕らが入るんですから」

奥入の言う通り、初期の雷門生徒の好感度は全体的に低くあちらから話しかけてくる事はありません。

好感度を上げるのは誰が相手でも苦勞するため好きなキャラと仲良くなりたいたい通常プレイでは苦心しますが、走者にとってはうま味しかありません。

タイムは全てに優先される。

「待つていましたよ♪ では早速、ユニフォームに着替えて下さ〜い」

はえ〜すつごい大きい（部室）

趙金雲の話が終わったら速攻で大谷つくしからユニフォームを受け取りましょう、ありがとナス！

「細谷、ど、どう？ 似合うかな？」

のりかがホモくんに見て意見を求めてきました、流石サッカーも出来るギャルゲーといっ

たところでしょうか。

おや、珍しく頷くコマンドがありませんね、『似合う』と言っておきましょう。

この嬉しそうな反応は……好感度70%くらいですかね、たかい（確信）

全員がユニフォームに着替えると、趙金雲から『FFで勝ち続けるため、必殺技を覚えてもらおう』という方針を伝えられます。

その言葉は思春期真っ盛りの中学生によほど刺さったのか、皆テンションが高くなっていますね。

「ではいざグラウンドへ！ ホーツホツホ♪」

あつ、おい待てい。

ホモくんは普通の部活動には（参加し）ないです。

一緒に特訓する事による好感度上昇を加味しても割に合わないからですな。

伊那国では他に選択肢がなかったので参加していましたが、雷門中にはイナビカリ修練場があるのでそちらを活用します。

というわけで懇願しましょう、鍵貸してくれよなく頼むよ。

「……フム、ま、良いでしょう。行って待ってて下さ〜い。場所は知ってますか〜？」

肯定すると鍵を渡されるので、これでイナビカリ修練場に入ってシステムを起動させ

ておきましょう。

一応パスワードはかけられてますが、そんなもの走者の前では無意味です。先駆者兄貴達の血の滲むような地味な苦行の成果ですね。

それではパスワードを解いておっ空いてんじやくん！ といきたい所さんですが、しません。

何故パスワードを知っているのかと趙金雲に目を付けられ、ホモくんの奇行諸々で興味を抱かれ、トータルでかなりのロスを被ってしまいます。

先駆者兄貴達は何を思っつてパスワードを突き止めようとしたんですかね……。

少なくともちよつと早くパスワードを解いて特訓する程度ではロスを取り戻せないので、Roundaboutでも聴きながら大人しく待ちましょう。

つまり倍速……ん？（EXボイス）

「はあ、はあ、いた……」

イナビカリ修練場で軽い準備運動をしていると、神門杏奈が現れました。

別名ガバ誘発の女です、あまりにもフラグが立ちやすいので走者からは蛇蝎の如く敬遠されています。

お前AMNNNかよお!?

このタイミングで登場するのは謎、というか一度もありませんでしたが、ガバの臭い

Part 4 特訓

原作キャラからヒロインを奪うRTA、はーじまるよー（半ギレ）

今回は神門杏奈から幼馴染COをかまされた所から。

早速運の揺り戻しが来ましたね。

マネージャーはよほど好感度が高くないと回復アイテムくらいしか貰えず、逆に会話やイベントによるロスが半端ないので非常にまず味です。

これで低好感度帯で有用なスキルの一つでもくれたら話は違ったんですが……。ですが問題はありません。

マネージャーの好感度を上げないチャートは既に構築済みです。

現時点でフラグが立っているかはアンナの好感度次第ですが、まあ大丈夫でしょう（無根拠）

「……久しぶり。覚えてる？ 神門アンナ」

うるせーくくくく!!! 知らねーくくくく!!! FINAL FANTASY と言えば好感度

が下がる事間違いないですが、アンナがマネージャーになっていませんし文字数が多いのでやめておきます。

何よりアンナがいないと野坂のイベントで大幅なロスを被るので、ここで下手にアンナの好感度を減らすのはんにやび……。

幸い『……知らない』があるので、これで反応を見ましよう。

「そつ、か……5年ぶりなものね……」

（心が）痛いですね……これは痛い。

別に放置しても良いんですが、アンナがホモくんを宝月と呼んだ事など、いくつか無視できない点があるんですよ。

名字が変わつてるとか碌な理由じゃないんだよなあ……イナズマイレブン特有の孤児はやめちくりー。

と、趙金雲がやってきたのでアンナはひとまず置いておいて特訓を開始しましょう。

イナビカリ修練場はオリオン編でも括約する有用施設なのでいきなり難易度MAXは無理です、そんな事したらホモくんの体が壊れて選手生命途絶えちゃ〜う。

今のホモくんだと20段階中2が丁度良いですね。

ではキツクとスピードの特訓を垂れ流しながら次の対戦相手、美濃道三中の解説を。

美濃道三は壁山を中心としたディフェンスに定評があり、逆にオフフェンスはそこまで強くありません。

しかも弱点が突ける山属性選手が多いのでカモです。

なのでホモくんには引き続きMFをやってもらいます。

D FがM F採用……（イナズマイレブンでは）普通だな！

ちなみに、オリキャラを採用しないチャートで走るとなるとスカウト選手を採用するのが安牌です。

とういかタイムやら何やらを考えるとそれ一択です。

伊那国はな　ぜ　かF W三人衆が全員火属性で属性不利ですし、壁山のステータスが頭おかしいよこの人……な性能をしているためですね。

壁山に限らず強化委員として各学校に配属された強化委員は全員ステが高く、（必殺技も同様に成長しているので生半可な選手では太刀打ちでき）ないです。

現在の伊那国サッカー部では、《属性強化》を覚えたホモくんギリギリ突破出来ないくらいですね。突破出来ないのか……（困惑）

とはいえ壁山はD F、円堂のようにT Pを削るしか突破口がないなんて無理ゲーではなく、十分に勝ち目はあります。

その鍵となるのが「スカイウォーク」とそこから派生する必殺技ですが、これの解説は後に回します。

今はG Pが切れかけのホモくんにスタミナドリンクを飲ませましょう。ビール！

ビール！　冷えてるか？

「はい」

大丈夫つすよ、バッチェ冷えてますよと言わんばかりにアンナからスタミナドリンクを渡されました。

ねえ感じちゃう……（マネージャーの素質）

アンナマネージャー問題はひとまず置いておくとして、ここからは特に見どころもなはずなので倍速です。

GPが切れかけたらスタミナドリンクを飲んで無理矢理体を動かすを続けていると、ホモくんがスタミナドリンクを飲まなくなりました。

こうやってドリンクを飲み続けると中毒症状一歩手前の状態になり、何も摂取できなくなります。

伊那国島にいた頃はこんな過酷な特訓は出来なかったので無縁でしたが、イナビカリ修練場ではしよっちゅうこうなるので気をつけましょう。

「宝……細谷くん。大丈夫？」

何故かずっといたアンナから投げかけられた言葉に頷いてイナビカリ修練場から出ます。

後片付けは趙金雲がやってくれるので、イナビカリ修練場で得たボーナスステータス

を振り分けながら木枯らし荘に帰寮しましょう、あゝ今日も学校楽しかったな〜早く帰って宿題しなきゃ（使命感）

あつおい待てい、まだ肝心なところ洗い忘れてるゾ。

帰る前に李子文とJ I N Eを交換しておきましょう。

誰だよ兄貴のために、李子文とは変な被り物を被った趙金雲の助手です。

詳しいことは世界編の際に紹介するとして、今はRTA走者に酷使される哀れな少年と認識していれば問題ないです。

J I N E交換してくれよな〜頼むよ〜。

「……良いですよ。はい、どうぞ」

現時点の李子文の好感度はとある事情から最低に近いので、嫌々渡してくれました。

これでもう本当に雷門に用はないので、帰寮します。

ちなみに、グループラインに『今から帰ります』と送信すれば主に明日人あたりに「帰るの遅くて心配したよ」と言われなくなり、ほんの少しだけタイム短縮になるのでやっておきましょう。

後輩を気遣う先輩の鑑。

しかしそれでもキャプテンの通成は確定で出迎えてくるので、風呂に向かいながらそ

れなりに言葉を交わしておきましょう。

言葉を交わすといっても、ホモくんの場合、領くか肯定するかが大半なんです。

風呂から上がったら赤点回避のために勉強をして、李子文にラインを送って、明日に備えて寝――

「細谷、お前にお客さんらしい。降りてきてくれないか？」

あのさあ……時間考えて、どうぞ。

この時間に客がやってくるなんてチャートには書かれていないので、十中八九神門杏奈でしょう。

あーもう（チャートが）めっちゃくちゃだよ。

「こんな夜分にごめんなさい。でも、どうしても話したい事があるの」
はい。いやはいじゃないが。

出来る事なら関わりたくないというのが本音ですが、ホモくんの過去を知っておかないとかなりのロスが出そうなんですよね……お日さま園出身だったら普通に再走ですし。

こんな事なら親からホモくんの過去を聞いておくべきでしたね……次からはチャートにちやーんと書き足しておきましょう。

とりあえず二人きりで話したいとの事なので、ホモくんの部屋に案内します。入っ

て、どうぞ。

おおくええやん、ベッドついてんねや。

アンナをベッドに座らせませんが、ホモくんは安定の無言なのでアンナから話し始めます。

「……私と細谷くんは、同じ病院で生まれたわ」

いつも通りまとめると、ホモくとアンナは7歳まで近い場所に住んでおり、仲はそれなりに良好だった。

しかしホモくんの両親が事故で亡くなり、ホモくんは孤児院に預けられた。

それからは連絡を取り合う事もなく、雷門に転入してくる伊那国サッカー部の資料でホモくんを見つけたから声をかけた。

分単位で増えていくタイムに頭を悩ませながら入手したホモくんの過去は……クソだよクソ！ ハハハ！（KBTTT）

何一つとして重要な情報がないです、たまげたなあ。

どこの孤児院出身かが一番気になるんですけど、アンナは知らないそうです、はーつつかえ。

「細谷くん、本当に思い出せない？ 自分の事も、私の事も」

走者もホモくんも当然知らないので、もうアンナに用はありません、帰ってもらいま

しよう。

部員達から送ってやれよオーラを感じますが、そんなロスにロスを重ねる行為はクビだクビだクビだ！

通常プレイで何度も行ったので知っていますが、結構遠いんですね、アンナの家。俺はアンナなんかに興味ねーんだよ！二度とくんじゃねーよ！ というわけでアンナを送り帰しました。

ぬわあああん疲れたもおおおん。

こんな序盤からガバるとかやめたくなりますよ〜RTA。

これからはチャートに書かれていない事態が発生しないように祈りつつ、眠りにつきましよう。

再走は嫌だ再走は嫌だ再走は嫌だ……。

さて（高速切り替え）、これからホモくんには四時起床の生活を送ってもらいます。

理由は簡単、デメリットなくイナビカリ修練場を使用できるからです。

これからイナビカリを使用出来るタイミングは大きく分けて朝、放課後、夜に分類されますが、本チャートは朝イナビカリ、放課後部活、夜睡眠のルーティンでホモくんを

鍛えていきます。

効率だけを見るなら放課後もイナビカリが理想ですが、それだと部活に不参加となり好感度稼ぎが出来ません。

前回『好感度稼ぎを加味しても部活動は効率が悪い』と言いましたが、だからと言って全く参加しないのはダメです。

好感度が低いと試合中にボールを渡されなくなり、経験値が貰えず、世界に行けなくなるのでこのルーティンが序盤の最高効率なのです。

朝はホモくんが眠いたため若干効率が落ちますが、授業中にスタミナドリンク中毒を緩和出来ますし無駄がありません。

本当なら週2で夜に違法バイトという名の金策をする必要がありますが、親からの仕送りがあるのでしなくて良くなりました。おおくええやん、気に入ったわ。

じゃけん四時になったので起きて雷門中に行きましようね。

「……本当に来ましたか」

はい、寝る前に李子文に『明日午前五時 雷門校門前集合』とJ I N Eしたので、校門前にすげえ嫌そうに立っててくれます。

ただでさえ低い好感度がさらに下がりますが、李子文に限ってはどれだけ下がっても問題ないです。

これまたとある事情からホモくんの願ひならほぼなんでも聞いてくれますし、世界編で敵になるからですね（クソデカネタバレ）

じゃけん説明もそこそこにさっさと修練場に向かいましょうね。

修練場の鍵を持つてるのが趙金雲か李子文しかないのです、こうしてわざわざ来てもらいました。

学校の不法侵入もなくはないんですが、ロスなのとリスクしかないのですこれからも李文には朝五時から雷門に来てもらいます。

可哀想。

くホモくん特訓中く

特訓と授業は特に語ることもないのでカットです。

見所さんが完全に行方不明ですが、どう森のバグなし借金返済RTAも似たようなものだし多少はね？

ということ放課後の部活です。

通常プレイであればみんなと基礎力増強のトレーニングですが、

「ちよつと待つてくださ〜い。良い事を思い付きました」

『主人公が一定以上のブロックを持つ』かつ『動的かつ個人で行使できるブロック技を持つ』を満たせていければ、趙金雲から待ったがかかりません。

後者がいまいちわかりにくいですが、わかりやすく言えば不動の必殺技しか覚えていなければ待ったがかかりません。

これには一切動かない壁を生み出す〔ザ・ウォール〕などが当てはまります。

要は明日人の「イナビカリダッシュ」で回避できる必殺技を持つのが条件です、壁系は点や線ではなく面で制圧してますからね。

「細谷くんと明日人くんには一対一で勝負してもらいますよ。トクゼン、明日人くんは五歩以上動いてはいけません！」

「ええ〜!? 嘘でしょ監督!」

ルールは簡単、コートの半分の中で明日人がホモくんの守備を抜いてゴールを決めれば勝ちです。

ただし、明日人はセンターサークルからゴールまで五歩以上動いてはいけません。

ただでさえ無理ゲーなのに、ホモくんの守備まで加わっては終わりだ……(天仰ぎ)ですが、趙金雲は可能と判断したようです。

「では早速、始めてくださ〜い♪」

明日人はいつでも動き出せるよう構えながらホモくんを注視してますね。

必殺技を持つホモくんを最大限警戒しているようですが、そんなんじゃないよ（嘲笑）
超次元サツカーは後の先を狙うのではなく先の先を押し付けるのが理想です。お
らっ【スパイラルドロロー】！

「くっつ、うわあっ！」

いくら警戒していたと言っても、ギリギリ反応できるだけです。身体はついていきま
せん。

カードゲーム然り、そら（主導権を持った方が有利なのは）そうよ。

主導権をホモに握らせるな！（迫真）

起き上がった明日人の方にボールをコロコロします。

無言無表情の後輩から次を催促されるとかこれマジ？ 会社でやったら先輩に嫌わ
れそう。

でも明日人は好感度が高いのでそんな事はありません。

「まだまだ！」

と、この特訓は明日人の【イナビカリダツシュ】習得のためなので、初動狩りはほど
ほどにしておきます。

世界篇でも括約する強技なので少しでも熟練度を稼いでもらいましょう、GOギャラ
クシーの【アインザッツ】枠ですね。

とはいえこの段階での習得は不可能なので、今日のところは大人しくホモくんの養分になつてもらいます。おらっ「スパイラルドロ」!

ちよつと好感度が下がった気がし田所さんで特訓は終わりです、明日人は辛そうに息を吐いています。

対してホモくんはGPこそ切れかけですがスタミナドリンクは飲んでないですし、あまり疲れてないご様子。

これはGP消費を抑えるスキル、《不撓の精神》を覚える日も近そうですね。同じく「ソニックショット」を忘れる日も近そうです。

ではシャワーを浴びて着替えたらパパパツと帰寮して、終わり! とはいきません。サツカー棟の作戦会議室とあるクエストを待ちます。

そのクエストは発生こそランダムなもの美濃道三戦までに一回は確実にで発生するので、今チャートに組み込みました。

好感度調整もあるので発生は早ければ早いほど良いのですが……頼むよ(懇願)
「なあお前ら、ゲーセン行きたくねえか?」

はい、来ました。

剛陣が発生させるミニクエスト、"ゲーセンに行こう"です。

早速意思表示しましょう。

行きたいっ！！！！

会話選択肢は全て『……』なのでホモくんは別に行きたくなさそうですが、ここは何が何でも行つてもらいます。

でないとチャートの都合上アレス編はともかく、世界編で間違いなく詰みます。

というわけで『行きたいです』と打ち込んで喋ってもらいましょう、声小つせえ！！

「お？ おお！ 行くか、細谷！」

なんとか同行に成功しました。

面子は剛陣、日和、ゴレム、服部、のりか、ホモくん……試走通りですね、イレギュラーがなくてうん、美味しい！（のりかから目を逸らしながら）

邪剣夜、行きましようね。今の時刻は午後の7時前なので雷門から直行します。

では、移動中にクエスト『ゲーセンに行こう』の解説を。

報酬はしょっぱい熱血ポイントとしょっぱいゲーセンの景品、ついでにそこそこの好感度上昇ですが、目的はミニクエストをこなすことではありません。

ゲーセンに併設されたガチャを引く事が目的です。

RTAなのにガチの運に頼るってどういう事だよ（憤慨）と仰る視聴者兄貴の気持ち
はわかりますが、私がチャートに組み込んだ理由を聞けば納得せざるを得ないでし
う。

まず私が狙っているものは、属性有利の相手と勝負した時、必殺技の威力をを2.5
倍する《属性強化》というレアスキルです。

これがあればよほどレベルの暴力がなければホモくんは山属性選手相手に無敵にな
ります、これで山属性選手の多い美濃道三の選手を完封（壁山を除く）しようというわ
けですね。

ですが、本命はそちらではありません。

対戦でも猛威を払い、どのポジションでも括約するオールラウンダー、間違いなく最
強に名を連ねる世界編の敵選手、オルフェウスのヒデナカタ。

彼の天敵になってもらうために、ホモくんには何としても《属性強化》を覚えてもら
います。でないとストーリーで普通に負けます。

これマジ？ 全年齢なのに難易度が高すぎるだろ……。

ヒデの解説はまた世界でするとして、ゲーセンについたので早速ガチャを回してい
きましょう。

ホモくん母のおかげで熱血ポイントは余裕がありますが、（レア度の高いスキルが出

やすい高級ガチャを引くので試行回数はさほど稼げないです。

じゃけん一回目回しましょうね。

《イケメンUP!》

ハズレです。対戦では採用率の高い女選手をメタれる有用なスキルですが、ストーリーで戦う敵は大抵が男なのでほぼ恩恵がないです。

気を取り直して二回目。

《セツヤク!》

消費TPを軽減してくれるスキルですが、ハッキリ言って微妙ですね。

ホモくんの必殺技枠は6つしかないのです、これを採用する枠が余っていません。仮に覚えさせたとしてもすぐ忘れさせることになるでしょう。

そろそろ出てくれよなく三回目。

《イカサマ!》

はいっくズ（スキル）確定。ぶっ殺します。

あのさあ（クソデカため息）……相手のファウル率を上げるスキルですが、紛う事なき一番のハズレです。

ファウルで試合が止まってアディショナルタイムが伸びればそれだけタイムにも影響するので、アイテムボックスの中でじっとしていてくれ。

四回目、そろそろ熱血ポイントの限界が見えてきました。ウツソだろお前!?

《属性強化》

と、無事に来てくれました。

早すぎるとお思いの視聴者兄貴もいるかもしれませんが、そもそも期待値の低い運要素なんて採用しません。

これはRTA風プレイ動画ではなくれつきとしたRTA解説動画なのですから。

では用も済んだので今度こそパパパッと帰寮しましょう。

「えっ、もう帰るの?」

当たり前だよなあ?

と言うのも、ゲーセンには放課後と夜の時間帯でランダムに灰崎が出現するからですね。

感情喪失（喪失していない）状態の幼馴染への贈り物としてぬいぐるみを取るためにゲーセンに来ているそうで、周期は決まっておらず完全ランダムです。

なので次の瞬間にエンカウトしててもおかしくなく、そのため早めに帰寮しようというわけです。

《属性強化》周りの運ゲーが多すぎるんだよね、それ一番言われてるから。ひよつとしなくても改善の余地有りです。

「じゃあ一緒に先に帰ろっか。もう暗いしね」

ゲーセンの面子に親密キャラがいればホモくんと一緒に帰ろうとするので、今回はのりかです。

というわけでガチャだけ引いてブツチしましょう。

普通なら好感度が下がってしまう愚の骨頂プレイですが、何の問題ですか？ 何の問題もないね。

これは強がりでも何でもなく、実際に何の問題もありません。

『ゲーセンに行こう』はゲーセンに足を踏み入れるだけでクリア扱いであり、報酬の中に同行したキャラの好感度上昇が含まれているからです。

なので好感度は減少どころかむしろ増えてます。

でものりかの好感度がこれ以上上がるのはちよつと不味いと思うんですけど（凡推理）

「細谷、変わったよね。こういう所来ないと思ってたもん」

あつ（小林製菓）案の定会話イベントが発生しました。

好感度を上げた際に発生する絆イベントの前段階みたいなものです。

平均よりも大分早いですね。想定内とはいえ、ガバの芽であることには違いありません。

適切に処置しましょう（ギョツ）

「あ、もしかして興味はあった？ わかる、伊那国って良い所だけど何も無いもんね〜」
唐突な地元disは田舎民の特権。

ちなみに原作ではアイランド観光という企業がスポンサーに付いていた雷門ですが、今作でもそこは変わりません。

しかしアイランド観光の事業内容は変更が入り、『伊那国をリゾート地に据えた観光企業』から『東京と全国の観光地を繋ぐ交通機関係』の会社になっています。

これは『アイランド観光が伊那国サッカー部のスポンサーを申し出た』原作から『元々アイランド観光がスポンサーをしていた雷門に伊那国サッカー部が転入した』設定変更によるものです。

（でも今RTAではその要素は一切出てこ）ないです。

スポンサー特権で格安で船とかに乗れるのでイベントの多い通常プレイでは有り難みを感じられますが、ホモくんが遠出なんてするわけないだろ！ いい加減にしろ！

「……そういえば、さ」
ん？

「昨日、神門さんと何を話してたの？」

えっなにそれは（困惑）

チャートに書かれていないカルテが出てきました。こんなの僕のデータにないぞ!? いや、いくら何でも早すぎませんかね、しかも初のパターンです。

まだ会話イベントの延長線だと思いますが、十中八九ホモくんの過去が影響しているのでしょうか。

試走で数多好感度調整をミスったトラウマで再走も視野に入ってきましたが、まだです。まだこの豪運ホモくんを手放すには早いです。

ホモくんは影山すら治療可能なスーパードクターH、何も恐れる事はありません。

オリチャーリカバリー、略してオリカバリー発動です。

ひとまずホモくんの選択肢は……ロクなのがありません。

文字入力で喋ってもらいましょう、『僕の過去のこと』、と。

ここで『別に』とか言って拒絶すると好感度は下がると思いますが、唯一のGKにバツドステータスなんてついたら目も当てられませんし、ロスを受け入れてゲロります。

「それって、細谷が伊那国に来る前の?」

そうだよ（肯定）

うーん、ただ好感度が高いだけじゃなさそうですね、この反応。

ガバを引き起こしそうな人物に関しては試走でバックボーンの確認を念入りに行つたのですが、心当たりがありません。

だから試走で試させろつつつてんだろオラアン!!

「……細谷はさ、思い出したい? 前の記憶」

そんなものはフヨウラ! という意を込めて首を振ります(首)

ホモくんは英雄になりたいのであつて過去を思い出したいわけじゃないってそれ一番言われてるから。

「そっか」

と、そこからは呆気ないほど当たり障りのない会話でイベントが終了しました。

ですがのりかは明らかに何かを溜め込んでいる感じなので、これからは地雷を踏み抜かないようなプレイを心がけていきましよう。

丁寧丁寧丁寧に、というやつです。

安定を取るなら絆イベントを発生させて原因を取り除くのがベストですが、ただでさえ時間取られる上に女性キャラなので輪をかけて長いんですよ……。

なのでお祈りプレイです、まだFFの一回戦目すら始まってないのでプレイ中の走者はこ無ゾと絶望しています。

寮に帰宅した所で今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

Part 5 美濃道三戦

もう既にチャートが崩壊しかけてるRTA、始まりなんだよおつ！（SANIA）
今回はのりかにキラークイーン第3の爆弾（クソデカネタバレ）を埋め込まれた所から。

今日も朝5時に起きて雷門に向かいます。

うくん、好感度トラップだらけのサッカー部と比べて、好感度が無くても最低限仕事をしてくれる李子文は心のオアシスですね。

今日もちやんと来てくれます。

「……行くぞ」

おっそうだな。

本日の特訓メニューは、イナビカリ修練場特注のGKロボとのタイマンです。

【スカイウォーク】の熟練度を鑑みて、そろそろ目当てのシュート技を習得出来そうなためですね。

密閉空間でロボとPK対決、これは実質ブルーロック。

【スカイウォーク】で飛距離を稼いで、バックドロップの要領でボールを蹴りだします。

うーん、コースが大きく外れました。

コントロールのステが比較的低いので難易度が高くなっていますね、ですが想定内なので続けていきます。

(初手苦行のテーママ20倍速)

数日が経過しレベルアップした所さんで等速に戻します。

無事目当ての必殺技、「スカイウォーク」を取得しましたね。

説明は次の機会に回すとして、これで美濃道三戦で必要なものが揃いました。

チャートに記された美濃道三戦までにやるべき事はあと、

「細谷。お願いがあるんだ」

明日人の対決を受けるだけです。

時は試合前日、イナビカリ修練場で走者がステ確認を行なっているため棒立ちのホモくんの前に、ボロボロの明日人が現れました。

その後ろには氷浦、万作、通成キャプテンがついて来ています。

「もう一度俺と戦って欲しい。たった数日だけど、あの時と比べてどれだけ強くなれたか、見て欲しいんだ」

ホモくんが一回以上「イナビカリ・ダツシユ」の特訓に付き合っていると発生するイベントで、正直うま味は薄いです。ほんだしを入れ忘れた味噌汁くらい薄いです。

ホモくんか明日人の技熟練度が足りないといった状況に陥らないための、いわば保険ですからね。薄いのもしょうがないでしょう。

が、明日人にとってはそこそこのうま味なので無言で快諾します。

「じゃあ……行くよ、細谷」

「いいよ！ こいよ！ 胸にかけて胸に！」（迫真）

と語録を吐きはしたものの、この勝負、普通にホモくんが負けます。

「イナビカリ・ダッシュ」は足に雷を纏い限界以上の加速力を生み出す必殺技なので、「スパイラルドロロー」しかないホモくんじゃまず対抗できません。

行動パターン自体は先駆者兄貴たちによつて解明されているので頑張れば勝てますが、それをすると明日人のメンタルがちよつと面倒な方向に向かうので、良い感じに本気を出したうえで負けましょう。

手加減してるとAIに判断されたらそれはそれで面倒くさいので……。

「イナビカリ・ダッシュ」！」

とはいえ、勝負自体は一瞬で終わります。

雷の残像を残して、気付けばホモくんを抜き去りゴールポストに侵入していた明日人。

超スピード!?（レ）

これには流石のホモくんも驚いた表情です。

「どう!? 細谷!」

なんだよ、結構やれんじゃねえか……。

これなら美濃道三戦でも括約が期待できますね。

では、俺は止まんねえからよ、お前らが止まんねえかぎり、その先に俺はいるぞ!

だからよ……止まるんじゃねえぞ…… (倍速)

バスに揺られ、会場である美濃道三中に着きました。

ふはー、今日もいいペンキ☆

他に語るべき点はありません、さっさと会場入りして試合を始めましょう。

相手選手との顔合わせは明日人あたりがしてくれるので、ホモくんは控室で瞑想します。

うーん……瞑想アシストパワーブラッキー……ポッチャマ……。

「へへ、やっぱ緊張すんな」

「フン、気負う必要はねえだろ。星章よりは弱え」

「そ、そうですよ。のりかさんに細谷くん、それに明日人くんも必殺技を覚えたんですし

……きつと勝てますよ」

「そうだと良いけどね……ていうか負けたらどうなるんだろ、俺たち」

暗い暗い暗い don't cry (RU)

服部半田の一言のせいで控え室に暗い空気が落ちました、どうしてくれんのこれ？

みんなを励ます役割の明日人は外で美濃道三と話してますし、何よりホモくんは喋りません。

ですがこの程度ならデバフは発生しませんし、後のイベントで解消されるので放置します。

あ、ちなみに負けたら伊那国島に強制送還なんですけどね、初見さん。

スタッフと呼ばれ、スタジアムに出るホモくん達を歓声が出迎えます。

予選一回戦とはいえFF、観客の数も相当なものです。

ただ試合会場が美濃道三中なので、そちらの歓声の方が多いですね。

伊那国雷門はそんなアウエーな状況に萎縮中、ですが時は待ってくれません。

準備運動をした後はすぐに試合開始です。

「……なあみんな、円陣を組まないか？」

「円陣、ですか？」

「ああ、その、みんなの気持ちの一つにするためにやっておきたいんだ。ダメ、か？」
その直前、暗い暗い暗い d o n t , s c r y な空気を感じ取った通成キャプテンが
円陣の提案をします。

これでチーム内の不和と緊張が少なからず解消されるので走者としてはやっておきたい所さんですが、困惑していて誰も組もうとしません。

判断が遅い！ という事でホモくんには通成キャプテンの隣に移動して貰いましょう。

未成熟なイレブンの描写としては非常に好ましいのですが、RTA的にこんな事で数秒もロスってられませんので。

「細谷……」

ついでに通成キャプテンの好感度が結構上がります。チヨロスギイ！

そしてホモくんを皮切りに全員が動き出し、無事円陣を組み終えました。

やっぱりイナズマイレブンの……円陣を……最高やな！

「じゃあ……みんな！ 全力で勝とう！」

タッチペンを出せ！（幻視）

スターティングメンバードですが、星章学園戦の際にホモくんを左サイドに配置しているので特に弄る必要はありません。

奥入には変わらずベンチウオーマーしてもらいましょう。

美濃道三の選手紹介を飛ばして、はい、よいスタート（試合開始）

美濃道三にのりかを破る必殺技は存在しないので、ホモくん含めどんだん上がって貰います。

ハツキリ言つて、この試合は余裕で勝てます、余裕のよつちゃんいかです（当社比）
守備は壁山のおかげでとんでもない固さとなっていますが、攻撃面はさほど……とい
うかクソ雑魚ナメクジだからです。

壁山がDFかつ他人に教えるのが上手ではないので、そちらにまで手が回らなかった
のでしよう。

無印と比べてメンタルが弱い弊害ですね、あくまで無印と比べてって話ですが。

「いくぞ明日人っ！」

「はー！」

伊那国は速攻で一点取って逃げ切る方針なので、素早さ自慢の明日人が突っ込んでい
きます。

「【フランケンゴース】！」

原作ではフランケン守タイムだった技ですね、ここでも妖怪ウオッチのノリを出さなくて良いから（憤慨）

最強さん召喚と同系統の技ですが、今の明日人なら「イナビカリ・ダツシユ」で難なく避けられます。

が、

「ザ・ウォール！」

「くっ！」

これマジ？ 壁山が硬すぎるだろ（n回目）

美濃道三は相手選手を壁山の方に誘導するAIが組まれており、気を付けないと今の明日人のように吹き飛ばされます。

さて、必要なものが全て揃っているのいつでもゴールを狙えますが、まだホモくんは何もしません。

必殺技を使わず、怪しまれない程度のパス回しに専念します。

《属性強化》持ちのホモくんなら一点や二点余裕（余裕とは言っていない）で奪えますが、それをしない理由は、試合時間が止まる機会を減らすためですね。

イナズマイレブンの試合は前後半合わせて1時間、さらにそこにアデイショナルタイムが加わっておよそ1時間5分ほどかかります。

このアディショナルタイムですが、ファウルやコーナーキック、さらにゴールが発生した際に伸びます。ついでに試合が一時中断されます。

そして試合時間が止まってもRTAのタイマーは針を進めているわけで、つまりゴールやファールは起きれば起きるだけロスになるといわけです。

そのためゴールと前後半の終了のタイミングを合わせ、試合が中断される機会を減らそうというわけですね（星章学園戦は一点取らないとイベントが進行しないので例外）それに、序盤からホモくんが暴れすぎるとチームが『もうあいつ一人で良いんじゃないかな』ムードになり、覚醒イベントが遅れたり消失したりします。

ちよつと繊細……繊細すぎない？

と言ってるうちにイベントが発生しました。

氷浦がドリブルでは美濃道三に通じないと察し、パスで前線を上げようとしています
が、それもブロック技で阻止されます。

パスにブロック技は使えませんが、あくまで氷浦を対象に使用しており、パスを防げたのはその副次効果という判定で技を使用していますね。

概念系バトルかな？

そして美濃道三ボールのままこちらのDFラインに持ち込まれ、ゴレムと石壁ヤモリのマッチアップ。

が、まだ必殺技を持たないゴーレムはあっさりとは吹き飛ばされます。

あかんこれじゃ雷門ゴールが死ぬう！ 雷門ゴールが死ぬねんこんなくらいじゃ！

(反語)

「ウズマキ・ザ・ハンド！」

生きてるへ〜！

シユートはのりかがバツチリ防いでくれます、まだ序盤でノーマルシユートを打つ確率が高いので、お祈りするまでもありませんね。

このように美濃道三戦で必殺技を習得する氷浦とゴーレムには、自分の力が通用しない、というイベントが発生します。

この挫折を乗り越えて二人は「氷の矢」と「ザ・ウオール」を習得するんですね。

美濃道三戦前に無理矢理習得させることも出来ましたが、好感度を上げる必要がありますしそこまで目立ったリターンを得られないのでイベント進行に任せます。

各々自力で覚醒してもらいましょう。

(ホモ君パス回し専念中)

前半終了のホイッスルが鳴りました。

想定外の事態も起きず0対0、これなら一回シュートを決めるだけで済みそうですね。キメてんだろ？ くれよ（KBTIT）

「チツ、いくら何でも強すぎるぞ、壁山塀吾郎」

「ファイアトルネード」を壁山の「ザ・ウォール」でシュートブロックされた小僧丸がいつもの如く荒れていますね。

様々な要因が重なり、伊那国の火属性FW三人衆ではどう足掻いても壁山に勝てません。

多少のロスを出して鍛えたとしても、です。

なので余裕で序盤最難関の相手なんですよね、オリキャラなしの場合有用なスカウト選手を引き入れないとPK勝負までもつれ込んでしまいます。

（ただただ硬いだけな上にこっちの戦力も整っておらず塩試合メーカー過ぎて序盤に出して良い対戦校じゃない可能性が）濃いすか？

こんなんじゃRTAになんないよ（棒）

タイムが伸びそうで走者は不安よな、ホモ君、動きます。

「細谷？」

「なんだ、なんか策でも思いついたか？」

ではちよつと面倒だけど文字入力……いや、選択肢に丁度良いのがありますね。

『僕にボールを集めてください』と。

「え、でも細谷くんMFじゃ」

「……俺は悪くねえと思う」

ベンチにもたれていた小僧丸が真つ先にホモくん賛同してくれました。

好感度が高いと説得フェイズを省略できて良いですね、ええ。

「ずっと修練場とやらに籠ってたんだ。必殺技の一つや二つ覚えたんだろ？」

コクリ、と意味深に頷くホモくん。

「ほらな。じゃあもう任せるしかねえ。認めたくねえけど、俺の「ファイアトルネード」

じゃ通用しないしな」

そんな感じで、後半戦はホモくんがボールを集める戦法を取ります。

が、すぐさま得点はしません。まだ氷浦とゴーレムが覚醒していませんしね。

最初は必殺技なしで壁山の方に突っ込んで行き、「ザ・ウォール」で吹き飛ばされます。

あれだけの大口を叩いておいてこのザマ、伊那国メンバーからの好感度は多少下がりますが、ゴールすれば上昇するので問題ありません。

というか減らしておきたい人もちらほらいるので、最終盤でパスを貰える程度を目安

にどんどん無策で突っ込んでいきましょ。ただ、美濃道三のホモくんに対する警戒度が下がるのはそれはそれで調整が面倒なの

で、時折反撃を入れます。

わざと相手にボールを渡してコマンドバトルに突入、すかさず「スパイラルドロ」を使用します。

ボールを持っているとブロック技を出せない仕様を利用した、ちよつとしたテクニクですね。

テンポの早い対人戦だと完全なる魅せプですが、序盤のCPU相手だとこんなもんです。

そのまま順調に前線を上げ、「ソニックショット」を相手のゴールにシュウウウーツ!! 「させないっす!」 「ザ・ウォール」!

強スギイ! 「ザ・ウォール」はグレートロード屈指の低コスパ技というのもあり、本当に隙がないですね。

先輩、隙(がない) っす!

「城西くん、この人が一番強いっす! 気をつけるっすよ!」

「はい、壁山さん!」

おや、ホモくんへの警戒が若干強いですね。

使用しているDFチャートは親密キャラが一人も存在しない事を想定しているので、のりかが親密キャラとなっている今走はキック値で差が出たのでしょうか。

なら少し引き気味の立ち回りを心がけて、

「まだまだ！ 次だ細谷！」

ボールを奪った明日人からパスを受け取り、再度攻め上がります。

この時点で後半戦が20分前後経過していると伊那国の強化イベントを余さず発生でき、ホモくんがロスなくシュートを決めることが出来るので頑張つて調整しましょう。

そしてこの時ホモ君の警戒度が一定値を超えていると、

「こいつは絶対に通すな！ せえーのッ！」

「【ザ・フォートレス】！」「」

消費TPの重い新技でブロックされ、すかさずカウンターに転じられます。

原作アニメでもアピールされていた美濃道三の戦法ですね、まあオフエンス力がなさ過ぎて対処は容易ですが。

では何のためにカウンターを誘発したの？ とお思いの視聴者兄貴の声に答えましょう。

これまでの一見無駄に見えるホモ君の奇行の目的は、ゴーレムの覚醒です。

現在、伊那国は美濃道三の守りを突破しようと躍起になつて前線を上げてしまつており、守りは非常に手薄です。

ホモくんが何度かワンチャンを作り出している影響ですね。

そんな状況でセンチターバックのゴーレムがゴールを守り切るには、必殺技を使用するしかありません。

そうして決意を固めて「ザ・ウォール」を編み出すんですね、イベント進行だと原作と同じ流れです。

いやまあ、「ウズマキ・ザ・ハンド」を覚えたのりかがあるのでまず失点する事はありませんが、こういうのは本人の気の持ちようなので……。

「ザ・ウォール」！ ゴス！ 氷浦はん！」

はい、無事に覚醒してくれました、この時点でのシュートブロック技は貴重なのでバンバン働いてもらいましょう。

そしてゴーレムと氷浦の覚醒イベントはセットなので、「もつと強いパスを……ならー！」

ただのパスでは美濃道三は破れない。

そう確信した氷浦は必殺技でパスの威力を増幅させ、ボールを前線に送り届ける戦法を思い付きます。

いやそうはならんやろ。なつとるやろがい！

「ラストリゾートΣ」を始めとした四人必殺技、攻防共に使用できる「イナビカリ・ダッ

シュ」といった歴代にない新要素の多い今作ですが、流石にパス専用の必殺技は存在しません。

では何なのかと言うと、「氷の矢」はロングシュートに分類される必殺技です、それを氷浦が無理矢理パスとして成立させているんですね。

「氷の矢」!

はい、無事ホモくんへボールが回ってきました。

時間的には……問題なさそうですね、止まるんじゃない、犬のように駆け回るんだ（G
Oサイン）

「ザ・フォートレス」!」

カウンターを仕掛けたせいで美濃道三も守りが薄いですが、それでも最低限は固められています。壁山もゴール前にいますしね。

ですがその程度ではホモくんの障害にはなり得ません、つまり「ザ・フォートレス」の対策もバツチリです。

技判定に引っかかるギリギリを見極めて「スカイウオーク」を使用しましょう。

あつ、おい待てい。

本日二度目の視聴者兄貴からの静止が飛んで来た気がしたので、別撮りした解説映像を垂れ流しながら説明します。

まず山属性の「スカイウオーク」は技威力では「ザ・フォートレス」に敵いません、ホモくんでは属性不一致ですしね。

ですが「スカイウオーク」には一つ、『壁系の必殺技を相手にした際、技威力に大幅な補正が入る』という特性を持ちます。

「ザ・ウオール」や縦にビバれこと「ビバ！ 万里の長城」などには「スカイウオーク」は無類の強さを持つわけですね。

そのために「スカイウオーク」を習得したのかと納得した視聴者兄貴達へ。

そんなわけねえじゃん！（M T O K S U Z U）

そもそも「ザ・フォートレス」に勝つだけならドリブル技はなんでも良いです、なにせホモくんには《属性強化》がありますからね。

大半の選手は何とかなります。

問題は壁山です、こいつには《属性強化》付き「スカイウオーク」でも8割型敗北します。

ええ……（困惑）

実際、ホモくんが着地する地点には壁山が構えており、このままでは着地狩りされて

しまうでしょう。

というわけで、この時のために持ってきた「パルクールアタック」を空中で発動させます。

言い間違いではなく、画面のホモくんは実際に空中を起点として技を発動させています。

通常なら「パルクールアタック」は地上始動ですが、「スカイウォーク」から繋げる際に限り空中から発動できます。

両方とも空中に足場を作るからこそ実装されたのであろうこの合わせ技は、なんとシュートブロックを無視します。

つまり、壁山の「ザ・ウォール」をスルーしてシュートを放てるという訳ですね。

これが「パルクールアタック」が必ず必要な理由であり、真の美濃道三対策です。

壁山とコマンドバトルをしなくて良いだけでなく、シュートブロックまで無視してくれますからね。

この仕様がアプデで消されれば、チャートを練り直さなければならぬくらいには影響が大きいです。

ちなみに地上技を空中から使えるのはバグのようなもので、この二つの組み合わせでしか使用出来ません。

(他の組み合わせでも使えたらブツ壊れだから) 多少はね？

実際対戦でも猛威を振るっていた時期がありました。

ピカチュウと(日)野坂に使われていた時代から出世したものです。

あ、ゴールしましたね。

これで伊那国雷門の先制点かつ最終点です。

Foo→気持ち良い。

試合終了のホイッスルも鳴り、無事伊那国雷門の一回戦勝利です。

歴代ゲームでは試合時間を過ぎて得点が決まった場合、試合再開と同時にホイッスルが鳴るシステムでしたが、今作からはブザービーター試合終了直前にボールを蹴り、ゴールに入れる。この間に試合終了ホイッスルが鳴った際、ゴールは得点としてカウントされ、そのまま試合は終了する。バスケ用語が採用されたので、まるでアニメのような決着が可能です。

よりイナズマイレブンの世界を体感できるのは良いですね、ええ。

RTA的にも出来ればそこその短縮ポイントとなりますが、かなりシビアかつ出来なかった時にちよつと損した気分になるので個人的にあまり好きじゃないです(小声)

そしてイブシロン相手に「ファイアトルネード」をキメたGO炎寺並みにゆつくりと自軍に戻るホモくんを、雷門メンバー達もみくちやにしていますね。

リザルトを背景に今回はここまで、ご視聴ありがとうございました。

第二話 胸に燻る

彼の名前を見つけたのは、本当に偶然だった。

ほんの少し前に行われたスポンサードトーナメント、それに出場していた一校の選手達が雷門に転校してくるといふ。

となれば当然、生徒会長である神門アンナの元にも、彼らの情報を纏めた書類は降りてくる。

それを眺めていた時だ。

ペラペラとページを捲る指が、とある選手の欄で止まった。

少しはねた黒髪、物憂げな黒い瞳、そして、細谷誠也という氏名。

写真から受ける印象も、なんなら苗字すら違う。

けれどアンナは彼に、ひどく既視感を覚えた。

幸いすぐにその正体に行き着く。

「確か……宝月誠也、だったかしら」

椅子を引き、顎に手を当て、呟くのは以前の彼の名前。

一つ歳下で、明るく、サッカーが好きで上手な少年だった。

家が近所だったため付き合ひも多く、こうしてスラスラと名前や思い出が浮かんでくる。

「どうしたんですか？ アンナさん」

「いえ、なんでもないわ。それより、趙金雲さんに聞きたい事が出来たから。出るわね」生徒会メンバーにそう伝え、書類片手にサッカー棟に向かうアンナ。

雷門に付いたスポンサーの資金提供で新築されたその自動ドアをくぐれば、いつものようにゲームを遊ぶ趙金雲の姿があった。

思わず眉を顰める。

「お話があります」

「なんですか？ もしかして、伊那国の彼らの事ですかあ？」

趙金雲の視線は変わらずゲームに釘付けで、対話の姿勢はこれっぽっちも感じられない。
い。

わざとらしいため息の一つも出ようというものだ。

いや落ち着け、こんな事でいちいちイラついては、話したい事も話せない。

アンナはそう自分に言い聞かせ、努めて静かに声を絞り出す。

「その通りです。一体どういうつもりなんです？ 部員を全員退部させたと思ったら、

他校の選手を招き入れるなんて」

それは遡る事数ヶ月前。

旧雷門メンバーが海外のチーム、バルセロナオーブに敗れ、強化委員として全国に散った後の話。

全国優勝を成し遂げた雷門サッカー部には多くの入部希望が届いた。

これは良い、部活動の活性化は雷門中にとって喜ばしい事である。

問題は、彼らの入部届けを受け取る監督がいなかった事だ。

響木正剛はとつくに監督業を降りており、かつて監督をしていた冬海卓は論外。

かといって雷門校には、今のサッカー部を任せられるに足る教師はいない。

外部教員を雇うにしても全国優勝校というネームバリューが逆に足を引っ張り、いつ

まで経っても相応しい人材は見つからなかった。

監督がいなければ入部は出来ず、入部出来なければサッカーは出来ない。

その不満は意見箱を通してアンナにも伝わっており、どうしようかと悩んでいる、まさにその頃だ。

趙金雲を名乗る小太りの男が、彼女の前に姿を現したのは。

「これからは私が雷門サッカー部の監督ですので、よろしくお願いしますねえ？」

なんとも胡散臭い男だな、というアンナの第一印象と異なり、趙金雲は非常に優秀な男だった。

スポンサーからの資金を適切に分配し、スムーズに部員達の人数把握や伝達手段の確立を行い、不満が溜まりにくいメニュー提案やスケジュール管理、見やすく纏まった書類作成。

スポンサーから派遣された調整員、趙金雲の子分を名乗る李子文などの手助けもあったが、雷門サッカー部は短期間でメキメキと力を伸ばしていった。

各個人の才を見抜く炯眼けいがんでも持ち合わせていたのか、必殺技を使える選手も順調に増えていく。

それこそ、イナズマイレブンの再来と呼ばれる者達を欠いた今の雷門でも、FF二連覇を夢見ることが出来るほどに。

そうしてFFを三ヶ月後に控えたある日。

趙金雲は、サッカー部員を全員退部させた。

突然の事だ。

昨日までと同じテンションと声音で一言、

「え〜では、今日から皆さん。ここを出ていって下さ〜い」

そう退部を突きつけて。

雷門サッカー部は昔と同じ……それこそ円堂守が初めて部室の戸を叩くより以前に、

逆戻りしてしまったのだ。

それから二ヶ月、趙金雲は一切の入部届けを受け取らなかつた。

当然、それだけの問題を起こせば解雇も話に上がる。

だが結局、彼は監督の座に座り続けた。

誰もが、趙金雲でなければ雷門サッカー部はFF二連覇を達成できないと理解し、未だ心のどこかで期待しているのだ。

代わりに自分が責任を負うことになるかもしれない、という教員達のプレッシャーもあつたのだろう。

そんな彼らをよそに、新たに雷門サッカー部の門戸を叩く者達がやってくる。

それこそが、伊那国島の少年少女達だった。

という経緯だ。

趙金雲がコントローラーから手を離し、アンナの方に体を向ける。

「彼らなら私の期待に応えてくれる。そう確信しているだけですよ」

「期待？ FF二連覇なら以前のメンバー達のほうが」

「ブツブー、違いまーす。私の期待は優勝ではありません。まあ、あながち間違いでもありませんが」

それだけ言うと、再びゲームの方に意識を戻した。

「どうやら、これ以上のことをペラペラと喋るつもりはないらしい。ならば次だと、アンナは趙金雲とゲームモニターの間立った。」

「まだ納得がいきませんか？　大丈夫ですよ、今度こそちやくんとFF二連覇を目指しますよ」

「そつちはもういいです、ひとまず置いておきます」

そこで言葉を区切り、趙金雲に見えるように掲げるのは、束ねられた書類の1ページ。細谷誠也のページだ。

「彼の事について、聞かせて下さい」

まあ、どうせいつもの如くのらりくらりとかわされるんだろうな、というアンナの予想と異なり。

趙金雲は正しく驚いた、というリアクションを返した。

「あー、つかぬことをお聞きしますが、もしかして彼とお知り合いですか？」

「まあ、ずっと昔に。それとそのつかぬこと、誤用です」

「まあまあ。で、何が聞きたいんです？」

ゲームコントローラーを隣に座っていた李子文に預け、改めて対話の姿勢を取る趙金雲。

触ったことのないゲームに慌てふためく李子文をよそに、二人の話し合いが始まっ

た。

「彼は、その……小学生の頃に養護施設に預けられました」

「ええ、それは私も知っていますよ。伊那国の彼らのことはちやくんと調べましたので」

「それがどうしてか伊那国島に引越していて、雷門にやってくる」

それからアンナが知る細谷誠也をつらつらと語っていると、改めて実感する。

伊那国の中で細谷の情報のみが異様に欠けている、と。

他のメンバーが『伊那国生まれ伊那国中学校所属』と言った簡素な情報だけのため、非常に気付きにくい。

細谷に関しては預けられた児童養護施設も、細谷性の人に引き取られたであろう事も、所属していた小学校の情報でさえ、記されていない。

それがアンナの眼にはひどく不気味に映った。

だから、かつての幼馴染に何があったのか、どういった経緯を辿り、雷門に転入してくるのか。

「ん、何を聞きたいのかイマイチ分かりかねますが」

つまるどころ、

「貴方は少しでも知りたい、という事ですねえ？ 細谷くんの事を」

「知り、たい……」

知りたい。神門杏奈は細谷誠也の事を、知りたい。

そのピースは、ぐちゃぐちゃに絡まっていたアンナの思考回路をほぐすのに十分な役割を果たした。

「確かに私は細谷くんの情報を意図的に穴だらけにしました。つまり、貴方にも明らかつもりはありません」

「……貴方の言う期待と、何か関係があるんですか?」

「いや、勘が鋭いですねえ。ま、あると言えばあります。それはともかくとして」
相手について詳しく知りたいのなら、やるべきは一つだろう。

「そくんなに気になるのなら本人の口から直接聞いてみてはいかがですか? あくまで個人の口からは言えないだけですしねえ」

「へっ? え、と……それは、その……」

趙金雲のアドバイスにいつもの凜とした調子はどこへやら、アンナは途端に口ごもり始めた。

その理由は非常にシンプルだ。

気まずい、である。

細谷が事故で両親を亡くして施設に預けられたのが小学校低学年、アンナと遊んでい

た時間などごく僅かだ。

幼い頃に仲良くしていた少女の事など忘れているかもしれない。

いや、年月や細谷の身に起きた不幸を考えればそちらの方が自然だ。

そんな彼に“いかにもな雰囲気”で話しかけ、ズケズケとデリケートな過去に踏み込み、万が一嫌悪されてしまえば。

気まずい、なんてレベルではないだろう。

死ねる。精神的に死んでしまう。

如何に地域を代表するマンモス校の生徒会長を務める少女と云えど、気まずいものは気まずく、不安なものとは不安なのだ。

まだ、彼女の胸中に渦巻く感情の正体すら定かではないが。

だからこそ慎重に動きたかった。

「では、素晴らしくい案を提示しましょう」

並外れた観察眼でそれを察知した趙金雲が、指を一本立ててそう告げる。

現状、細谷誠也について一番詳しいのはこの男だ。

ならば良質なアイディアの一つや二つあるのだろうと納得しつつ、アンナは紡がれる言葉に耳を傾ける。

そして、

「アンナさん、貴方には雷門のマネージャーとなる事をお勧めします！」
「はい？」

頓珍漢にも思えるその提案に首を傾げ、頭上にクエスチョンマークを浮かべるのだつた。



結論から言えば、アンナはマネージャーにならなかつたし、細谷は何も覚えていなかった。

アンナの事だけではない、預けられていた施設の事も、亡くなった両親の事も、宝月という以前の自分の苗字さえ。

彼を構成するあらゆるものが、朧げ程度にしか残っていないかつたのだ。

アンナが細谷の暮らす寮に押しかけ、知る限りの説明をしても、それは変わらず、少しヤキモチする。

自分は微かな記憶を頼りに、あれだけ感動的な再会を果たしたのに。

あんなにロマンチックというか、劇画的だったのに、と。

「あつちはなーんにも覚えていないなんて」

そう一人ごちて、アンナはベッドに顔を埋める。

その姿勢のままたつぷり数分、様々な方向に思考を飛ばして。

最も強く印象付いていたのは、イナビカリ修練場の場面だった。顔を上げ、姿勢を仰向けに直す。

「本当に、まだやってたんだ……サッカー」

浮かべる表情も、性格すらも変わっていたが、サッカーに対してだけは何も変わっていないかった。

むしろ輝きを増していたようにさえ思う。

ひたすら真剣にボールを追う、彼の姿は。

「決めた」

試合を見よう。彼のサッカーをもっと見よう。諸々の問題は、それから考えよう。

まだ何も解決出来ていない心に、猶予を与えるために。

そうして生徒会長を務めながら時折グラウンドを眺める毎日が始まり、あつという間に試合の日は訪れた。

三度、結論から述べよう。

アンナは45メートル×90メートルという箱庭の、一時間という世界の中でしのがきを削る彼らの姿に、見惚れてしまった。

観客席よりもなお遙か天高くへ昇る細谷の姿が、脳裏に刻まれてしまったのだ。

だから後日、趙金雲の元を訪れ、マネージャーの話を持ち出したのは仕方のない事だろう。

「ふっふっふ、やはり貴方はマネージャーになってくれると信じてましたよ」

「……わかつていたんですか？ 私がマネージャーになるって」

「ええ。細谷くんの事もありますが、貴方、以前からサッカーに興味があつたでしょう？

目を見ればわかります」

表面上無言のまま、内心乾いた笑いが出る。

ああ、本当にどうして、こんな男が今まで無名だったのか。

そんな空恐ろしさを感じつつ、アンナは改めて思う。

自分は何のためにサッカー部に入るのか。

細谷に記憶を取り戻してもらうため？

なくはないが、理由としては弱い。そもそも、細谷は記憶がない今の状況でも問題な

く生活できているのだ。

無理に干渉する必要はどこにある。

サッカーを見たいから？

これもあるだろうが、わざわざマネージャーになる理由には満たない。

ならば、細谷を近くで見たいから？

これが一番近いかもしれないが、そもそもどうしてそう感じる？

恋心？ 何年も会っていない相手に、それは飛躍しすぎではなからうか。

かといって他にじっくりくる理由は浮かばず、まだ何をしたいのかすら定かではないが。

まずは伊那国雷門のマネージャーとして頑張ってみようと、アンナは決意を固めるのだった。